

明治二十年三月

谷口政德編述



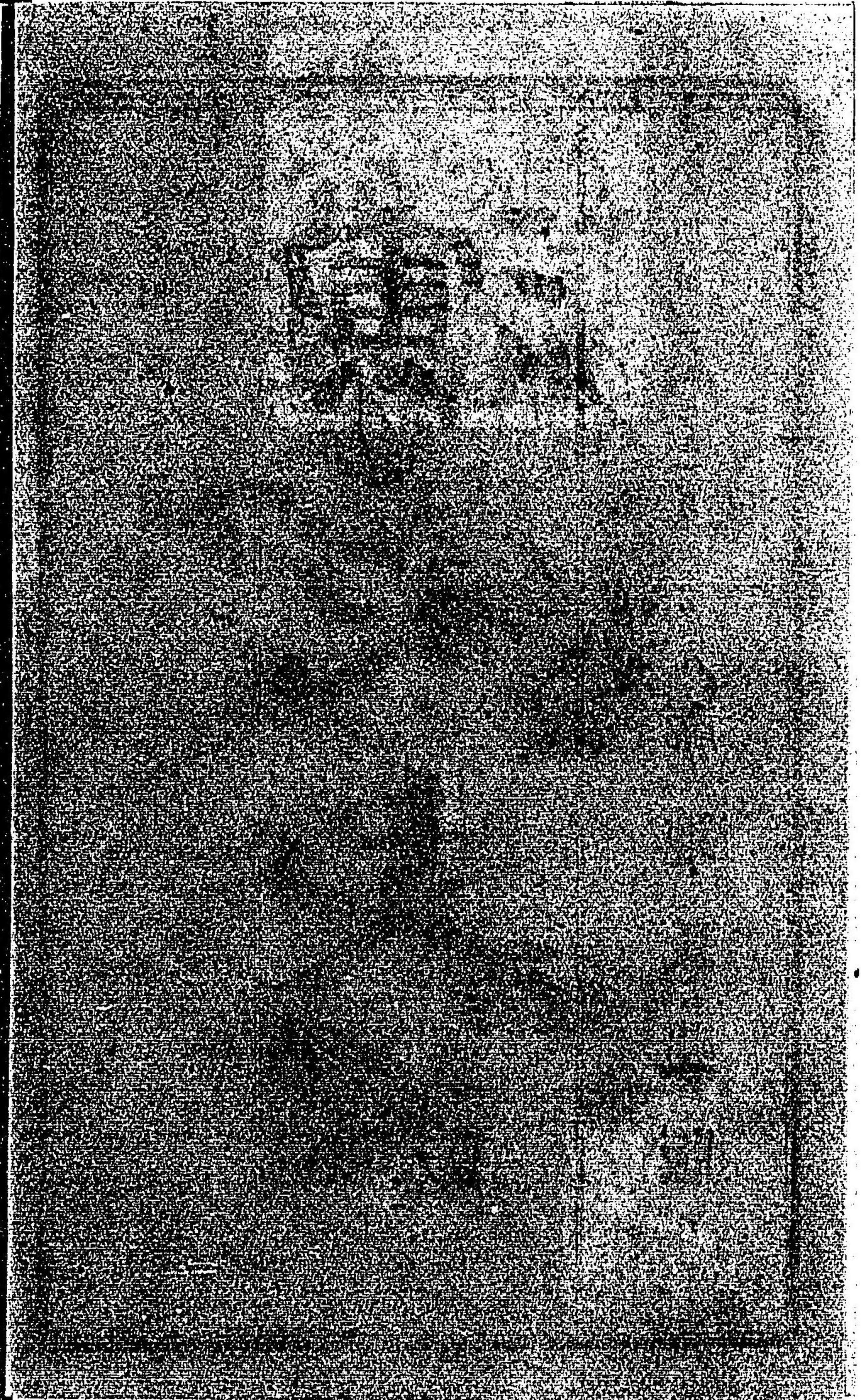
# 福地史

全

明治二十年二月

福地氏藏版

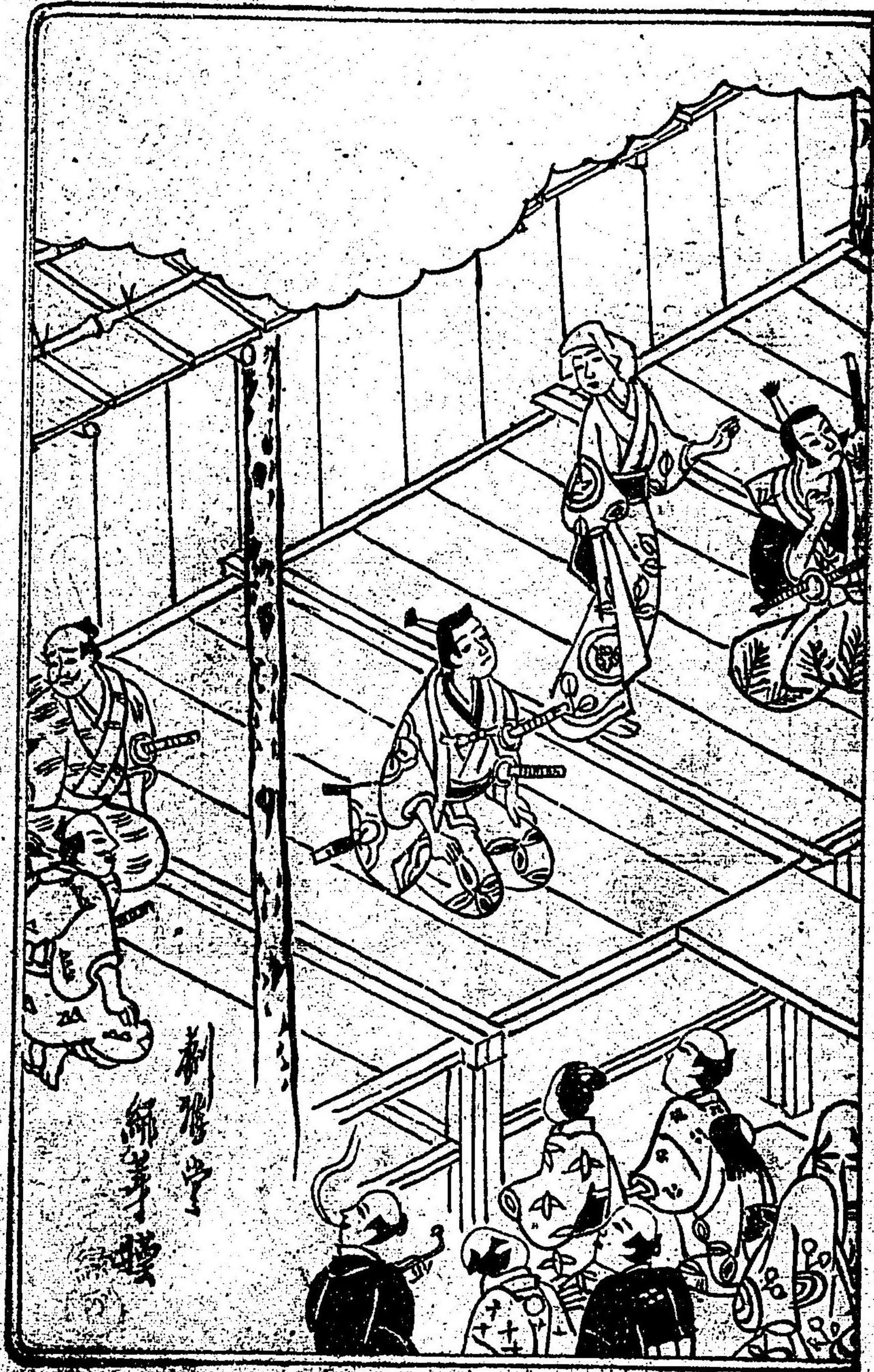


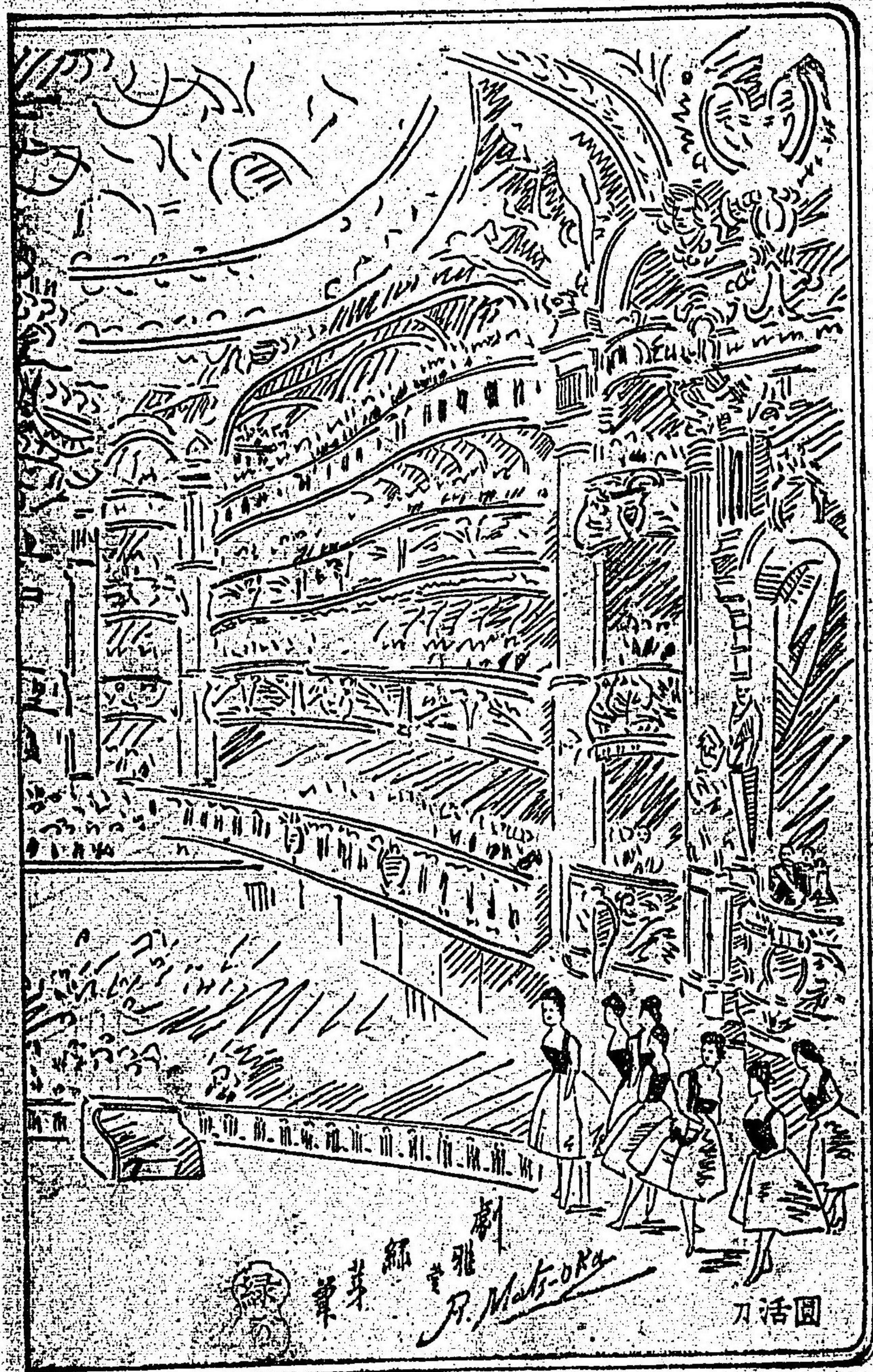
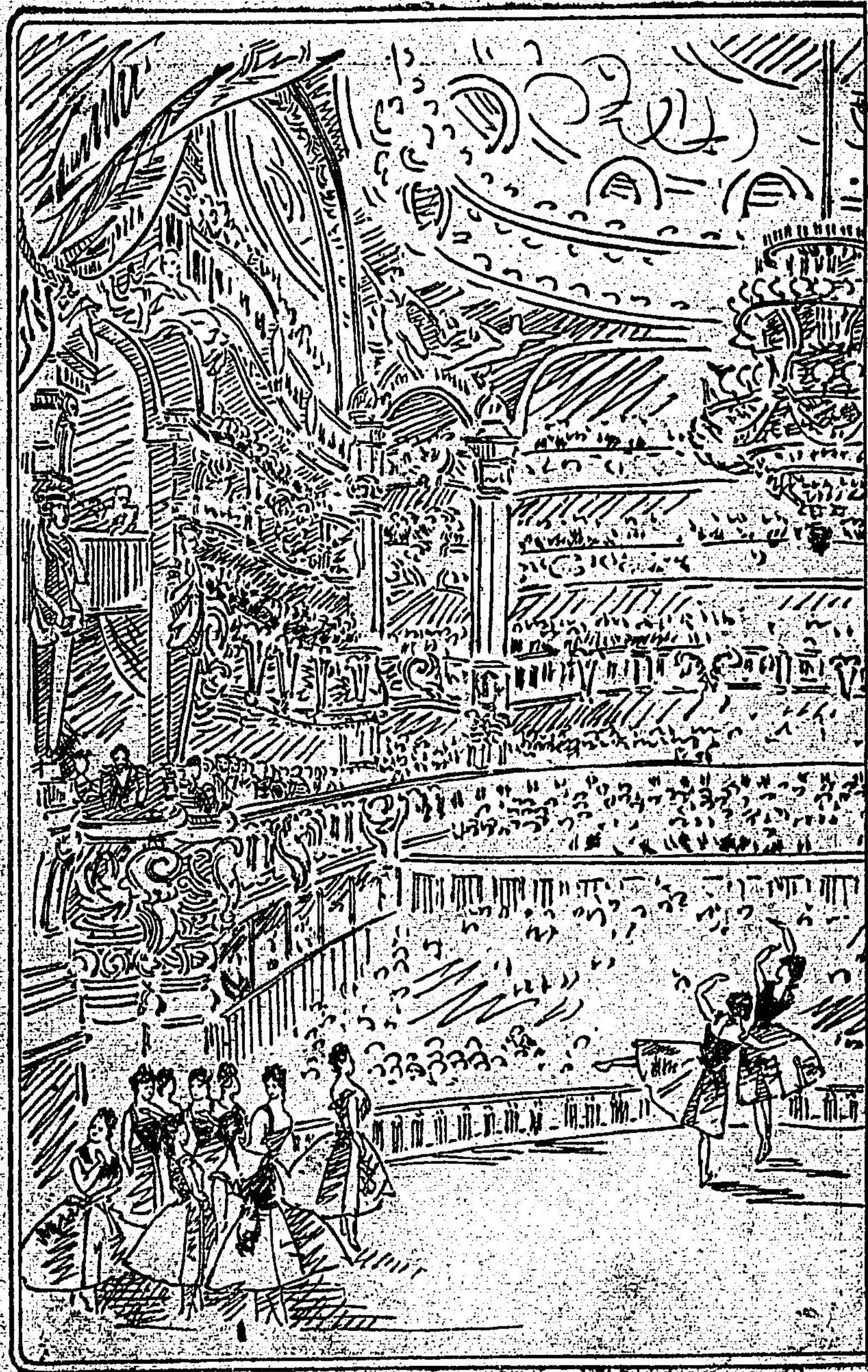


古氣

丁亥  
國海亭







堀越氏の揮毫なる  
題字温古とあるを看て

水 煮 馬 産

なつねすい

来るよしもなき

いよしへの

ふみの反古みそ

たひらなりけれ

演劇史叙

人生の快樂は言論の自由と内交の情味とをさし措き他より來りて我心は感せしむる者は目の樂み耳の樂みなるべしされどこの三者も風俗の慣習と各自の嗜好とを因りて始て其歡樂愉快を與ふる者なりまづ都人と田舎者とハ舌の味ひに大なる差めあり維新の初め某藩の大夫が八百善を登り其膳部は向ひて此の様な水具き物の食へぬを醤油持て來いと直に腕盛の中よぶちまけて啜りしことありとわかれハ織田右府が始めて上京のなりかの三好氏の料理を初手ハ罵

二  
り後より衰めたりし昔を思ひ違らる又四座の申樂は華族  
紳士の現つを抜かして御慰みあるも凡民俗人よりは二十五  
座の御神樂を面白しと見とれる者なり大聲は俚耳より入ら  
ずの譬ひ都會までしてはやす唄淨瑠璃も田舎へ廻ればデロ  
レン祭文も其地位を奪はるべし慣習と好嗜と大雲泥萬里  
かとの如き者なる中も義太夫と呼ぶ淨瑠璃節は實も人情  
を穿ちて都鄙上下の好嗜も適ひたるものや日本内は此の  
隅から南の端まで押並へておれを聴きおれを悦ばざるものな  
し是又一國の風俗ともいふべきかさて現在内國も行はる

演劇は此淨るるを相方とせし人形芝居が其根元までやが  
て眞人間が出來の坊の身振せしより起り竟に今日の歌舞  
妓芝居と移り變りしなりされば慣習と好嗜と適合せしよ  
り永く世の人の快樂も供はる者こそ近頃演劇改良の論  
いと盛なり改良は何事もまれ此上もなき結構なるわざなれ  
と我國の風俗は如何と深く心も留めず一足飛びも高飛  
して歐羅巴諸邦ですることは何もかも文明の事業なり開  
化の所作なりや時勢と人情と次第せずやたら西洋風の外  
見皮相を移して改良と心得たるは云い、出來の坊が眞人

四  
間の真似をするや同しからん決して真の文明學士の見識  
とも思はれざるなり谷口君其自著の演劇史より一言添題せ  
よと云はる云ひなきハ山々あれど長口上より自由を述ふるハま  
た口より風を引せるの責めを免かれず又敵役と半道とばかり  
の渡りせりふも色氣なからんふとらで幕を引とこととせん

丁亥の端月

如電居士大規修志るす

自序

蒼天黄土之間。有奇觀焉。悲而傾城。笑而亡國。怒而骨山血  
海。樂而酒地肉林。昨則忠臣義士。今則亂臣賊子。朝則交臂  
笑歎。夕則戟手眦睨。忽而冲霄之鶴。忽而表冢之狗。或嘆。或  
激。恐懼者。怨恨者。千狀万態。其變化不可端倪。是之謂活劇  
矣。不視夫鏡花水月乎。雖不可摸捉。而其影則不可掩。然則  
有此活劇。豈無其影哉。影者何也。曰演劇是也。画工模花月  
人物也。必以形與影。是二者相待而不可離也。今画爲形。天  
地之大活劇者。史記也。春秋也。然而爲其影。演劇則永矣。豈



無所欲歟。予於是。略叙演劇之變遷。名曰演劇史。其意竊倣  
隗耳。若夫文之板澁。事之粗漏。則仰大方之叱正矣。

梅蕾含笑時於台麓茅舍

流鶯谷子識

演劇史目次

日本演劇前史

總說

傀儡 操リ芝居

猿樂 田樂 能狂言

琵琶法師 平家物語 淨瑠璃 三味線

今樣 白拍子 河原藝

念佛踊 歌舞伎

日本演劇本史

京都芝居

大阪芝居

江戸芝居

劇場 古代劇場、鼠木戸、幕、棧敷土間、破風造、橋懸、花道、  
 演劇 狂言外題、女形衣裳、俳優種類、名優傳、名優年系表、  
 俳優 狂言種類、飾り物、野郎帽子、前帶、限取、チヨボ、  
 作者 淨瑠理作者、狂言作者、

### 西洋演劇史

總説

各國演劇 希臘、羅馬、支那、温都斯坦、  
 伊太利、佛國、西班牙、英國、

戯曲及作者

各國俳優

劇場及諸道具

衣裳、飾具、樂器

### 演劇史

日本演劇前史

谷口政徳編述

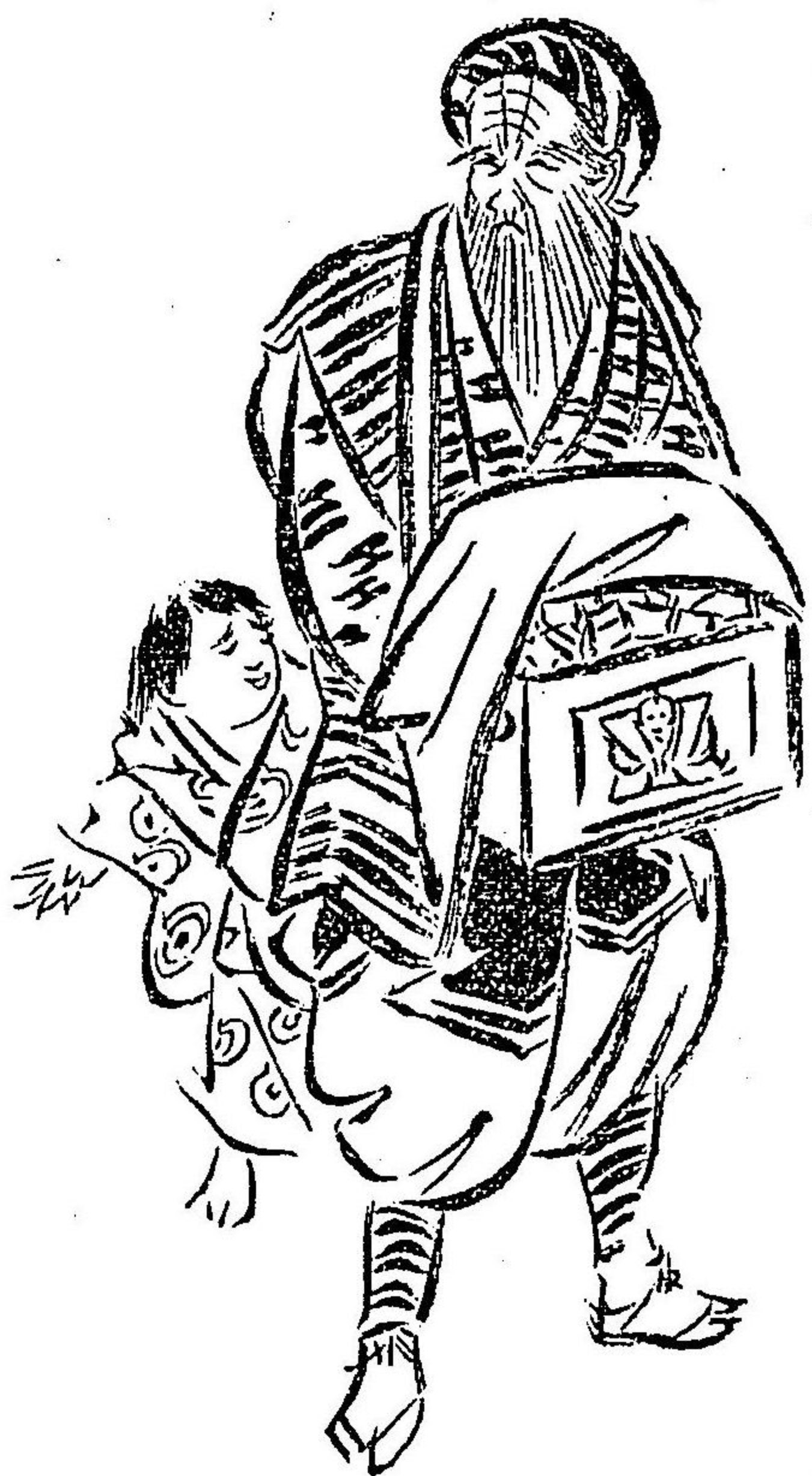


歌舞戯曲は其時世の嗜好と適するを以て正鵠となをものあれハ即世  
 態の真相を寫し出せるもの外ならずされハ世の變遷と文化の發達  
 進化せしことハ各國皆一轍に出づるが如し我國演  
 其進化の次第を探索すれば其根原は我邦固有の歌  
 せる伎樂と相混合して今の演劇を成形せしものな  
 一ならずと雖これを大別すれば傀儡猿樂琵琶法師  
 女舞念佛踊の五種にして各其系統を逐ふて變遷進化し傀儡ハ操りと  
 なり猿樂よりハ田樂能狂言等を出だし白拍子の女舞ハ變じて久勢舞  
 となり又河原藝となり琵琶法師ハ平家物語となり又淨瑠理を出だし

念佛踊ハ直ちニ歌舞伎ニ變ヒ遂ニ近くハ操リ能狂言河原藝淨瑠璃念佛踊等相混化して今の歌舞伎を生ぜしなり因りて先此順序ニ隨ヒ各系統の變遷を叙し以て我國演劇進化の一斑を示すべし

傀儡

演劇の原素たる操り芝居の祖ハ傀儡あり傀儡の始めハ伊弉諾伊弉册尊より起りしと雖も是等の説ハ暫く措き始めて傀儡を操りし者ハ攝州西の浦の百太夫なり百太夫西の宮の神前にて神意を慰むる爲人形を操りし其事竟に 叙聞に達し百太夫を召て其伎を演せしめられ諸伎藝首の号を賜ひ諸國諸神社いさめの勅免有しかば胸ニ箱をかけ人形を以て神をいさめしといふ是れ傀儡の始めあり百太夫は諸國をめぐり淡路三原郡三條村ニ終れり後ち某四人百太夫より傀儡を習ひしが是より傀儡傳播せしが西の宮は其淵源となりたり傀儡は往時定



劇雅堂  
緑芝居

居あぐりて男は弓馬或は劍を弄し木偶を舞はし又今の手品つかひの如き業をなして人目を眩惑せり又女は粉装して唱歌淫樂を爲したり東國よてハ美濃三河遠江等の黨を豪貴とす山陽の播州山陰の馬州黨ハ之に次ぎ西海黨は下とあす其名儼は十三日百三十載万載小君孫君等あり今様右門様足柄片下催馬樂里烏子田歌神歌掉歌辻歌満固風俗呪師法士等種々あり

〔操り芝居〕 操り芝居の起原ハ澤角の門人目貫屋長三郎といへるもの西宮傀儡師引田某と謀り始めて淨瑠璃を合せて人形を操る事を始め當時後陽成天皇の叙覽に供へたり西此宮ハ百太夫以來傀儡の淵源あり次に河内左内といへるもの出で又島田万吉といへる才女始て淨瑠璃操りを興行したり永祿の頃六字南無右衛門といふ人も亦淨瑠璃を興行す是より淨瑠璃ハ必ず操り座よて語ることとなりたり宇治竹本

狂言座等京師操り芝居の始めありこれを芝居と云ふハ諸説あれども要するは芝の上にて演したるより起りたれどもその芝の上と云ふハ看客が芝の上よ居りて操り藝人の芝の上よて演ぜしにあらざりといふ又今の俳優の肩を動かし或ハ眼を轉ずる等のことハ皆操り人形よ模擬したるものありといふ大坂にてハ京より左内宮内といふ淨瑠璃語下りて興行せしより追々繁昌したり又江戸よて操りの始めハ天正年中薩摩淨雲といへる人角澤龍野の両檢校より曲節を習ひ得て江戸よ下り多く新作を綴りたり是までの端淨瑠璃のみありしが淨雲より段續きの淨瑠璃を始めしといへり淨雲寛永の頃堺町よ操り座を始め猿若村山兩座と繁昌を競ひたりといふ其門人櫻井丹波なるもの此操り座よて坂田金時が勇壯の事を作り出して時好よ協ひ大に流行したり其後ち三劇場淺草聖天町に轉ぜしとき操り座も亦同所へ轉せ

猿 樂

歌舞伎の起りは古來傳ふる所によれば天照大神天石窟入り玉ひしより起ると然れども是等曖昧の世の事は措て記せず翰林蒞集に曰入皇三十四代推古天皇の御宇厩戸皇子秦川勝に命じ六十六番の曲を作り天神地祇を祭り紫震殿前よ於て大饗の技を演せしむ太子神樂の神の字より取りて申樂と名付らる説文よ申ハ又神なりといふ又申樂は即猿樂なり又三十六代皇極天皇の御宇太子の子山脊王蘇我入鹿の擅横にして彝倫亂るゝを嘆し之を匡さんと欲し神代の政事を變風して妓樂を和げ童子をして之を舞ハしめたり鎌足入鹿を誅する時俳優として共帶る所の劔を解かしむ是れ今の俳優の起原なるべし宇治拾遺よ曰く内侍所御神樂の夜職事家綱を申し樂を命ずとあり又源平盛衰記に申樂は多

く人をして失笑せしむとありて重よ滑稽の事を演せしものなり總べて當時は今の狂言をバ悉く申樂と惣稱せしなり而して漢土より傳りし樂も亦猿樂と云しものゝ如し猿樂は散樂とも云ひ又散更とも云へり即ち文献通考よ散樂雜戲多幻術皆出西域始幼人至中國後漢安帝時自是歷代有之其支那より我邦よ傳はりしは村上天皇の御宇遣唐使以來にあり入皇六十二代村上天皇御製の散樂策には鳴濬來朝而有解頤之觀と書せり又史籍よ散樂の名顯はれしは三代實錄貞觀三年六月廿八日の條よ有雜伎散樂透撞トツシ呪擲シユテキ云々之戲とあるを始とす全書元慶四年庚子秋七月廿九日の條にも亦右近衛内藏富繼長尾米繼善散樂令二人大笑とあり然れば清和天皇の時より始まり然れとも宇多天皇の御宇即ち遣唐使以後は猿樂も亦世の風潮に沿ふて一變し遂よ新猿樂出てたり

〔田樂〕この新猿樂中に田樂と云へるものありて元田植の時農夫の勞を慰むる曲ありしが後ち一轉して田植よあらざる時よても之を演し猶田樂と呼び習はせり其後又再變して田樂と云ふ一種の歌舞となりて法師の業となりしハ七十三代堀川天皇の時よあり永長元年夏洛陽田樂の流行せしことハ大江匡房の洛陽田樂記に詳かなり是より猿樂衰へて田樂大に流行し其後本坐新坐と分れて互に其業を競へり太平記よ人王九十六代後醍醐天皇の元弘年間田樂一層洛中よ流行し貴賤之を遊ぶ北條高時之れを聞き新坐本坐の田樂を鎌倉よ呼び下して興行せしハ北條滅び南北の亂に及ぶも足利尊氏亦甚だ之を好み貞和五年十一月十一日四條橋を架せし賀として勸進の爲め新坐本坐の田樂を合せて競能を四條河原よ興行す攝籙の大臣將軍を始め之よ臨み朝野群集を極む此時オホソラ拍子刀玉等の曲終りたる後ち新坐の樂屋より

新工夫を設けて猿樂を出せしは群衆の大喝采を得たりと是れ猿樂の再變して世に出でたるものなり而して此時代より邦人漢土よ往來するもの多く彼の元朝よて盛に行はれし傳奇雜劇の体に倣ひしハ田樂の始めなりと云へり足利の始めより應永文安の頃まで猿樂と田樂と對行せしが終よ田樂ハ廢して刀玉類を出し猿樂の如く謠をうたひ能く云ふ事を爲すに至り田樂は唯だ神祭日に少しく其藝を勸むるのみよして猿樂獨り盛んなりき

〔能狂言〕足利義滿の時伊賀國の服部某が猿樂を能すと聞き召して童坊と爲し觀阿彌と名けて猿樂を演せしめたりこの觀阿彌は觀世流の遠祖なり寶生流は此觀阿彌より出でたり又當時竹田の人よて禪竹といへる者あり才學よ長し新曲を作りたり禪竹は猿樂の舊家田備の後を繼興し之を金春と稱す金剛は又此金春流より分出せり且つ狂言も



琵琶法師  
録

十

亦皆田樂猿樂等も附属したる能狂言より出てたり今の歌舞妓も亦能狂言より變化せるものにて長唄も亦此諸等より出てたり元和の頃猿若勘三郎なるもの猿樂より一派を開きて小唄を作れり是れ長唄の元祖なり其猿若と云へるは猿樂より出たればこの稱ありしと云へり又中古琵琶法師の物語も亦新猿樂より出たり

琵琶法師

〔琵琶法師〕を藤原明衡の新猿樂記中よめる曲名の一として其先は即新猿樂より出たり支那よては之を陶真と云ふ元と印度の古樂器よして其原語を「ビナ」と呼べりこの器の我邦よ渡りしは遣唐使藤原貞敏の唐の廉承武より得て傳はるを初めとす琵琶法師の一變せしハ平家なり琵琶法師の物語ハ人王八十二代後鳥羽院の時信濃前司行長入道稽古の譽ありけるか樂府議論の番よ召し七徳の舞二を忘れたれば五徳

冠者と異名せられしを耻て佛門に歸し源平盛衰記より撰みて平家を作り盲人生佛に教へて語らせけり是れ平家の起りなり彼の生佛が平家を語る其曲節他の法師ホツシに勝りしや後世に平家のみ流行し琵琶法師の物語を平家と呼做すとよ成りたり又はより盲女が物語をなして徘徊し鼓を拍ちて曾我を語ると流行し足利時代までよも及びなり借て平家の一變したるは淨瑠璃なり

〔淨瑠璃節〕の物語の轉變あり其起りは足利義政の頃あるべし享祿四年の宗長日記に駿州宇津山宿にて小座頭に淨瑠璃を唄はせとあれば其頃已に行はれたれば是よりも古く起りしものなるべし天文九年守武千句にも〔淨瑠璃語れ燈のもと〕の句あり然るに口碑に傳ふる所よれば織田信長の侍女小野阿通淨瑠璃を作り丹後七郎左衛門橋本筑後の二人に音節を附けて語らしむるといふ此説の還魂紙料にも論じた

るが如く大なる誤なり其淨瑠璃と名けたるは源義經舎那主といひ一時三州矢矧宿長者の女淨瑠璃御前と通せしとを平家物語十二卷に擬へて淨瑠璃御前十二段草子と名つけたる物語を濫觴とす故に淨瑠璃本淨瑠璃節と言ひたるなり初めは右の爪先にて扇の骨をかきならし拍子を取りて語りしが三弦行れて後漸く其曲節を巧みにし盛に世に行はれたり昔は淨瑠璃あまり流行せずして説教與八郎歌念佛日暮林清を詠へり此説教歌念佛はもと鉦錫扶螺に合せし後に三味線と合することになれり其後淨瑠璃は説經歌念佛などを附和して漸々節奏を加へ鳴物と和して唄ひ遂に今の淨瑠璃節となしたるなり之を三味線と合することは瀧野澤角を始めとす澤角は琵琶の上手なりしが三弦をも手練し本手破手を引き出し琵琶に平家と合す如く淨瑠璃と合せて弾きたり故に後世其澤の一字を取て竹澤野澤鶴澤富澤歌澤等を云へ



り澤角の門人薩摩淨雲江戸に下り一派の曲譜を著し後ち薩摩長門  
虎屋左内等に分れ薩摩は更に淡路大薩摩下り薩摩土佐等の數家とな  
り長門は播磨喜太夫等に分れ播磨より義太夫を出し角太夫より文彌  
一中宮古路を出し宮古路より新内常盤津を出し常盤津より富本々々  
より清元を出せり今其分派系統の大略を左に擧ぐべし又初め淨瑠理  
の唯一様の聲にて語りしが鹽町政太夫男女老少種々の假聲を分ち實  
地の如く語り出せりといふ

長唄 猿若勘三郎小唄より一派をなせり

義太夫 竹本派は竹本筑後少椽藤原博教薩摩より一派を開き豊竹

派は豊竹越前少椽藤原重泰竹本より分派せり

常盤津 初代文字太夫宮古路より一派を開く

一中節 須賀千朴土佐より一派を開く

富元 富元豊前椽常盤津より一派を開く

清元 清元延壽齋富元より一派を開く

富士松 富士松薩摩椽宮古路より一派を開く

鶴賀 鶴賀若狹椽宮古路より一派を開く

新内 鶴賀新内富士松より一派を開く

河東 十寸見河東始めて一派を創す

團八 宮古路團八一中節より一派を開く

〔三味線〕は元と琉球より傳へたる樂器なりといへり琉球に二線三  
線四線の樂器あり之を歌と合せて彈することと此國より始まり胡弓  
も亦此國より造り出せり琉球國志略南島志琉球俗好三聲樂皆弄三  
弦とあり又物徂徠の琉球聘使記に三線の歌ハ琉球の曲とい云又外庵  
外集に今の三弦は元の時に始るとありて原器は蛇皮を張りたり或は

曰く三絃は魯國よて(パライカ)と稱し元來羅旬語にて歐洲の通稱なり  
 然らば往時和蘭葡萄牙より傳はりしものなりと其製作の今の形に變  
 せしは石村檢校月琴より考へて丸胸を角胸に製し猫皮を以て之を張  
 り始めて三絃と作出せしとも又堺の盲人中小路二絃を三絃に改めし  
 ともいへり月琴は琉球年代記に因れば後柏原院の御宇梅津少將應仁  
 の兵亂を避けて琉球に漂着し王族兼城按司カネツクシに寄りて潜匿す因て窃に  
 其女を通す女元より音律も巧みなるを以て少將竟にこれを學び永祿  
 五年夫妻豊前國に歸り石田村に隠れ一子を擧ぐ是れ則ち石村檢校な  
 り又一説に永祿の初中大路といふ誓師この器を得て石村に傳へたり  
 とも云へり併て石村は之を虎澤に傳へ虎澤は澤角に傳ふ澤角は淨瑠  
 璃の元祖なり筑紫等は永正享祿の頃筑紫に流されし公卿等の手を彈  
 きかへ越天樂とのべて合せたるに起る因て筑紫等と名づく筑紫善導

寺の僧之を傳へて世に弘めたり寛永の末に至り八橋城秀越天樂のふ  
きといふ草の名を本として組となりたるより大に世に行はると云ふ  
 當時柳川加賀といへる誓者八橋と同く三絃を能し遂に檢校の職を  
 得柳川八橋二流の祖となり三絃に柳川八橋といふ稱あるはこれに  
 職シヨクづけり

今様

〔今様〕は女舞にして催馬樂ハ驛路の鈴を振りて音節を合せたりとい  
 ふ大宰獨語に催馬樂を馬子の馬を追ふて諷ふ歌を取り擧げて之を絲  
 竹に合せ朝廷の神事にも御遊にも用ひたり是れ我國諷物の始めなり  
 とありたり其他部曲大和歌神樂東遊歌説教等あり皆鎌倉以前より流  
 行せり又今様の一變せしは白拍子なり

〔白拍子〕は女舞にして久勢舞は男舞なり久勢舞は古卑人の遺姿な

りとも云ひ又田樂の流行よつれて起るとも云へり白拍子は鳥羽帝の時鳥の千歳といふ遊女よ起る徒然單よ通憲入道信西舞の手興あるものをえらびて穢の禪師といふ女に教へたり禪師の女を静といひしが此の藝を繼げり是れ白拍子の根元なりとあり猿樂傳記よ曰く男舞は古き物語よ節をつけ烏帽子水干を着し笛鼓にて囃し女舞は帶劍をやめ狩衣よて姿を優よして一曲をかなでる之を白拍子と云ふ妓女龜菊祇王祇女佛御前等皆白拍子の遊君なりと當時の遊女はみな歌舞諸藝よ優なるを以て貴人の坐にも賞翫され往々叙覽よも備はれり其歌謠は一端あらず源平盛衰記に平重衡關東下りの時駿河の妓女を進め重衡は琵琶を弾し千手は五常樂皇座回急を奏し朗詠を諷すとあれバ雅樂よも達したるものと知らる東鑑文治二年四月三日二位禪尼御台所と鶴岡參拜の次で静女を回廊よ召出され舞曲をなさしめらる工藤左

衛門尉祐經鼓を撃つ畠山次郎重忠銅拍子をあす静は吉野山の歌をうたひ次に賤や賤の歌をうたふ古歌の首句を賤や賤とかへて諷ひながら舞台よ出たる機轉最も人々の歎稱を得たり此白拍子は後世女歌舞妓の遠源となれり又其變して一種賤民の間へ行はれたるは河原藝河原者幸若等なり

〔河原藝〕とて京師四條五條の河原にて建保の頃より種々の賤民木屋をかけ藝を演じて群衆の人に觀せ渡世とせり因りて斯の如き藝人を總稱して河原者と云ひ其藝を河原藝と言ひなせり幸若音曲は琵琶法師物語又猿樂の諷よ似て扇を以て手を拍て拍子をとり起ちて舞ふことなり詞ハ皆昔物語を述ぶと大宰獨語に見へたり猿樂傳記よ桃井氏の裔幸若丸叔山の兒童ありしが白拍子の吟段を坐ながら吟聲をつけて語りしより流石の人も面白しとて習ひしより幸若音曲の一派を開

くと又梅若も此幸若より出でるといふ

念佛踊

(念佛踊) 又や、子踊といふ鉢を叩きて踊りたりこの念佛踊りは承和四年六月十七日慈覺大師が唐の竹林寺よ入て引聲念佛を法道和尚より傳授せしに大師の音不足にして其音曲を得難く之を澁河鳥よ合して習ひ得たりと鉢源鈔樂道類集よ記載せり是れ梵貝聲明の傳はりし由來なり然れども梵貝聲明も亦た印度より傳來のものなり釋氏要覽法苑珠林笈埃隨筆等に詳かなり引聲阿彌陀跋よ云く引聲阿彌陀經者在昔慈覺大師於五名山傳此曲節云々と今の聲明は更よ是より起り其流派種々に分る其明細は魚山蘆芬集よ見ゆ聲明は即ち後世の歌念佛歌說教念佛踊說教與八郎等の遠源なり此聲明は唐僧より傳はりて是より歌舞妓の祖たる念佛踊も生出せり

日本演劇本史

京都芝居

演劇の形体を成せしは永祿年間出雲の巫女南園より始まる是より先き慶長年間念佛舞の流行せし頃阿國出雲大社の破損を修繕の爲との費用勸進とて諸國を巡り佐渡に渡り竟よ京師に至り將軍足利義輝よ見へ磐戸の神樂を奏す義輝大に感賞し屢ば之を營中よ召す阿國才色あり神樂を和らげ一種の舞曲を考出えて演じたりと云ふ又一説よハ東海道於國念佛踊りよ歌を雜へて踊りたりとも云へり此時江州佐々木家の浪人名古屋山左衛門と云ふもの室町殿よ仕ふ山左衛門あり始めて狂言盡といふ技を組織せり此の狂言盡といへるハ義經記曾我の復讐等の事を仕組み男女混交して歌舞をなし酒宴を侑けたり是れ歌舞伎狂言の始めなり此時狂言よ村山又左衛門京屋万太夫笠屋な

つ等の俳優加はりたり其後ち山左於國と通ぜしこと室町家に聞へ遂に二人供よ營中に出入するを禁せらる此時室町家よ松永久秀の弑逆あり世間騷擾するを以て山左於國の二人ハ獲る男女の俳優を率ひて去れり於國の事諸説ありて一定せずよりて参考のため二三の説を掲よ舞台を設け於國ハ男装をなし於國の夫ハ三十郎と稱し祇園の町後渡島正吉といへる遊女四條川原に舞台を設け於國形を舞ふとありたハ一説よ於國ハ妓女なりと云へバ於國ハ渡島へ渡りしことあれば或ハ同人ならん歟尻橋談よ據れば山三郎ハ於國に相具して早歌を教へしのみ其夫よハあらず其夫信長の時よ及んで再び許可を得北野ハ正しく三十郎なりと見ゆ

よ於て興行す是れ歌舞伎芝居の始めなり後ち豊臣秀吉阿國を伏見に召し歌舞伎を演ぜしむ其水晶の珠敷を襟よ懸るを見て体面を損するとなし乃ち珊瑚の珠敷を賜ふていへらく天下よ女多しと雖ども其の眞の女と呼ぶるハ於國あり我ハ天下の男と呼ぶるハこと難し彼の伎女よ劣れること憾むべしと嘆賞せられたりとぞ阿國舞を演ぜしと

き頭よ天冠を戴き白衣を着し幣束を捧げたり延寶年中迄ハ芝居よて狂言の終りにハ必ず天冠を戴きて舞たり此事を元祿年中天人よ托して舞ひ天人踊りと稱して間々演ずることありたり是より慶長年間よ至り北野の場を洛東祇園南林よ移し後ち五條橋の南に移せり山左の女子母の名を襲ふて於國と稱し猶ほ同所よ在て芝居を興行す世に謂ふ於國歌舞伎是なり此頃の歌舞伎ハ狂言も舞台のハ、りも能をやつしたる如きものにて大小鼓笛太鼓よて拍子し三味線ハなかりななり二世於國の婢を山三郎といふ名古屋山三是なり於國の弟子柏木といへるもの慧敏に於て新たに一機軸を出し從來神歌の變風を止め平家物語源平盛衰記の事跡を歌謠よ綴り太鼓に合せたり其裝束ハ天冠よ狩衣大口なりといへり此頃村山又左衛門の子村山又八松平名左衛門京屋万太夫鹽屋九郎次同九郎右衛門等皆伏見よ召され太閤の前よて

狂言を演じたり後ち於國芝居ハ伏見と京師と往來の間にあたりて妨  
 げあるを以て四條中島に替地を賜はりたり是より女歌舞伎流行して  
 遊蕩者多きを以て寛永の末終に禁止せられしかバ都万太夫なるもの  
 ありて美少年を女形となりて演じたり一が其狂言ハ専ら傾城買の事  
 を仕組みて大いよ流行一これを島原と稱せ一が後ち外題を傾城と變  
 したり然るに又た龍陽カキヤの弊風盛に行われ一かバ承應元年芝居停止の  
 令出でしより忽ち生業を失ふもの多きを以て同二年村山又兵衛ある  
 ものあり物真似狂言盡と名稱を改めて種々請願せ一かバ若衆の向飾  
 を廢し老成の如くすべ一とて漸くに許されたり因りて其若衆ハ額髪  
 を削り紫頭巾を被りて老成の形を装ひたりと云ふ明暦年間ハ俳優  
 ハ茶せん髪女形ハ手拭を被りたり寛文六年笠屋三勝なつといへるも  
 の、裔新勝の子三郎兵衛免許ありて享保元年よ至り四條よて後此新



歸  
 模  
 寫

勝女歌舞伎を興行せしと幾何もあく禁ぜられたり寛文九年都半太夫  
早雲長太夫龜屋糸之丞布袋屋梅之丞村山又兵衛糸槍權三郎大和權之  
助等七ヶ所の芝居を許さる是れ京都劇場の起原なり其後ち各所の劇  
場興廢ありしが現今大劇場と稱せらる者ハ祇園北側南側の三座なり

大坂芝居

大坂芝居の始は寛永年中より段助といふ者下り下難波領の傾城と女  
踊をさせたり浪花よては是を於國歌舞妓といへり其後女歌舞伎禁せ  
られしうバ寛文十年鹽屋九郎左衛門同九左衛門大和屋甚兵衛今の中  
の始め 河内屋與八郎松本名左衛門大坂太左衛門今の角の芝居等官許  
を得て濱側小芝居にて始めたりとが大と繁昌とたり然れども名代座  
元等もなく不規則なりとが慶安五年に至り始めて名代座元も改まり  
たり承應元年芝居停止あり同二年狂言盡と名稱を改め鹽屋九郎兵衛

等の芝居許さる又操つり芝居の始は京師より左内宮内と言ふ淨瑠璃  
太夫下りて興行せしより漸く繁昌に至りたり大坂ハ始より京師の芝  
居を輸入せし地なれば是等の原因よりして京江戸より大坂に至るを  
乗込といふ且俳優の船よて濱測よ來るを衆多の男女異服を着し狂ひ  
踊りて之を迎ふるを例とせり寛永の頃又は嵐三右衛門の坐ありて嵐  
喜代三八百屋於七の狂言を演じたり是れ於七狂言の始めなり角の座  
中の座戎座は現今と連續し大劇場と稱せられ朝日座ハこれと亞ぐ其  
他竹田座摩稻荷天滿堀江等の劇場あり

江戸芝居

寛永元年二月猿若勘三郎道順中橋に於て歌舞伎狂言を始め太鼓櫓を許  
され鶴の章を賜はる後諱心所あり同九年福宜町今の人形同十  
年伊豆より安宅丸入船せしかハ金の魔を賜りて木遣り音頭の船歌を

謠ひたり此頃神田明神境内に於て放下師久三郎放下師久三郎遣の類なり手品なるものの小芝居をなせしが後ち堺町に移り傳内と改名すその後又傳内といへるもの同所よ芝居を構へしより前なるを古傳内と呼びしが後兩座とも皆廢れたり同十一年泉州堺の人村山又三郎といへるもの名古屋弟子村山又左衛門の官許を得て常芝居を堺町よ興行し能の狂言をやつし舞の童子を交へ勤めしむ是れ市村座の權興なりその二代を市村宇左衛門と云ふ二代目中村勘彦作といふもの坐元となりて京攝より小歌三味線の藝人を下し一番宛の離れ狂言を興行し又右近源左衛門といふ俳優を招き練衣裕衣を冠り女形といふ扮裝を爲したり是れ女形の始めなり慶安四年中村座も亦た堺町よ轉じたり其頃の藝は猿若大名新發意太鼓といへる名目を以て能の狂言を一變し當時の有様に改作せり又花笠踊とて十二三歳の童男よ青き緑子張り櫻の造花と赤

き丸紐とを附けたる笠を戴かせ唐子の如き打扮よて金箔彩色の小太鼓の左右の縁に木樂子ほどの物を糸にて附け之を撃せたりと云ふ承應の頃にハ芝居も假り立にて舞臺よは床几を列べ棧敷といへるものなくして高場と稱するものありて舞臺へ通ずる道を設けたり然るよ明歴三年正月江戸大火の時芝居類焼せしかバ同年五月其子新發意と共に上京し皇居よ於て猿若の狂言を演じ衣裳並に御簾の總角を賜り新發意に明石と云ふ名を賜ふ此等其家の規模として享保八年芝居創立せり百年の壽と題名し其の座に於て猿若新發意太鼓の古曲を演じ其衣裳塵等を諸人に縦覽せしめてより以來代替り毎よ此例を行へり市村座は類焼の後ち葺屋町へ移り寛文中玉川主繕と市村竹之丞左衛門相座元よて始めて二番三番の續き狂言を工夫し引幕道具立を製出す是より大芝居の名を得たり其後兩座とも都傳内相長桐などの名



稱よ替りしと幾何もなくして舊よ復せり万治三年森田太郎兵衛といふ者木挽町五丁目釣入の地へ芝居を取建て坂東又九郎の二男又七を養子として名を森田勘彌と改む是れ森田座の權興なり後ち諱む所あり森と守と國音相通するを以て守田と改む當時中村市村守田の外木挽町六丁目山村長太夫の座ありたり此座ハ正保元年より創りしが正徳四年俳優生島新五郎奥女中江島と姦通し江島ハ高遠へ御預けとあり<sup>ゆかり</sup>生島の流罪よ處せられ爲に此芝居竟に斷絶し爾後三座のみよ定まりまが天保十二年堺町中村座より失火し兩座とも焼失またり此頃まで俳優ハ人民中最も劣等のもので見做され普通人民と交通するを禁じ芝居廊内の外切りよ遊行し或ハ廊外よ住居することを得ず若し廊外に出るときハ編笠を被る制なりまが漸く濫漫に流れまを以て此焼失より堺町葺屋町の兩座及び木挽町の森田座とも引拂を命ぜ

られ淺草聖天神に替地を賜はりその費用とまて若干金を與へらる翌年地名を猿若町と改む明治八年よ至り守田座ハ新富町よ轉じ更に新富座と改め當今劇場中の巨擘と稱せらる市村座ハ故の地よ連續し中村座ハ改めて都と稱し後ち又猿若と改め鳥越よ轉じ幾何もあく焼出したりしが再び構造して更ハ中村座と稱す千歳座ハ現今勃興して大劇場に列す其他中島春木桐壽森本等の劇場ハ皆近年よ始りしものなり

田舎芝居

田舎演劇ハ伊勢の古市を以て稱首とす昔時俳優ハ伊勢の芝居に於て演劇をあして好評を得しものハ京大坂の二番目師となしたり故ハ俳優の立者と稱せらるものハ就ふて伊勢に至りしあり伊勢よ亞ぐものハ安藝の宮島なり然るよ近來伊勢ハ稍衰へて尾張の名古屋更ハ興

隆一試藝所の位置を占むるよ至れり惣て田舎にて演ずる狂言の大低  
二日或ハ三日よて換へ之れよ京大阪にて有名の俳優一二人を加へ興  
行するを常とす而して其勸進元ハ京大阪にありて狂言を仕組み俳優  
をして諸國へ旅行せしむるものなり

劇場

〔古代の劇場〕昔時の劇場は棧敷といへるものもなく看客の居る所は  
繩を張りて區劃せたりしが後ち之を今の辨に改めたり又當時其入口  
よは「コモ」を張り其出入毎よ之をはぬたれよより今よ劇場の終結と「ハ  
チル」と云へり又劇場の始まるを蓋の開くと云ふハ昔し日さし六尺を  
出して芝居終る時ハ之を閉ぢたり恰も其形物を蓋するか如き有様あ  
りしより原因して其始末を蓋開きといへり

〔棧敷土間〕觀客の場所ハ四種あり棧敷土間高土間向棧敷とす棧敷と

ハ土間の兩側にて右の棧敷を西棧敷と云ひ左の方を東棧敷と云ふ高  
土間ハ棧敷の前通よて土間より高し爰にハ毛氈を掛る事棧敷と同じ  
土間ハ本舞台の正面の下通り廣き所を云ふ之を「ヒラ」と唱ふ向棧敷ハ  
舞台あり正面の方の高き所を云ふ

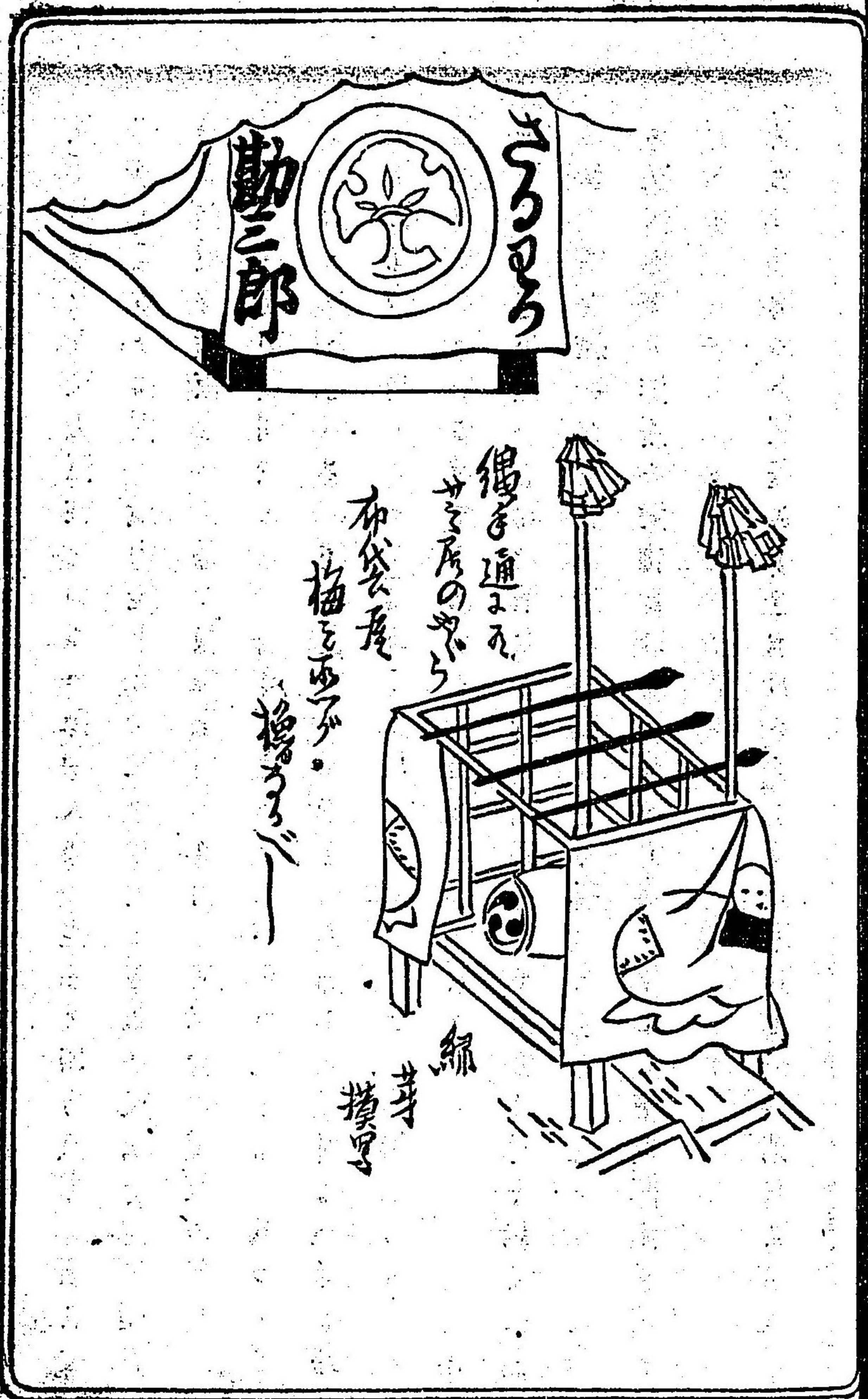
棧敷六十六間ハ六十六ヶ國の神を勸請よて各神の名ありと云ふ舞台  
の後よかけたるを鏡坐敷と云ひ幕の内両方よかけたるを紅葉といふ  
又紅葉櫻と云ふハ陣中よて棧敷<sup>カケン</sup>を掛たる名あり其正面よかけたるをか  
け出しと云ふ向ふを高橋と云ふ又は何軒目の出といひ夫より前を何  
軒目の孫彦と名けたり中央を人溜り切落し中の間と名く

〔矢倉〕昔し芝居木戸の欄上に床を設け座元の紋を表したる幕を張る  
其体裁城樓の如し是を櫓と云ふ是京師の伏見又ハ三條大原鞍馬長坂  
丹波鳥羽等の矢倉に象りたり又矢倉の左右よ魔を立つ之を焚天と云

ふ是れ陣中に用ふる魔なり陣中よて櫓よ登り人を召集するよ象りたり於國の時の白弊を矢倉の四隅よ立たりーが明曆年中よ至りて魔に替へたり是を焚天といふハ歌舞妓ハ元來勸徴の意を寓する者なれハ寸善尺魔を除く爲め焚天王を祭る旨趣なり又矢倉よ五本の鎗を立つることハ陣中五奉行の持鎗なり則ち人舛ハ五奉行の支配よ係るを以て矢倉に并べ置けりといふ

〔矢倉太鼓〕 矢倉にて鳴すハ陣太鼓なり見物を入る時早め撃つハ古例なり又人寄の内樂屋にて鐘古鼓を雜へ拍子をとる是を〔舍來留〕と云ふ大坂よてハ「シコロ」と云ふものを木戸口よ打てり

〔破風造〕 舞台の正面破風造ハ雲上人の御覽よ入れよとき給えりハものあり其時俳優の行装ハ甚だ華美よして刀劍を帯し從僕を従へしか後ち恒例となりしと云ふ三間間ハ芝居の中央よ舞台を方三間よ立つ



故よ名けたり又大臣柱といふ陣中大將の坐あり四方八方此所よて  
明了よ見るを得因て鏡の間といふ又松の内とも云ひ又次を梅の間と  
云ふ後板を鏡板といふ是よ松梅を畫けり恰も能舞台の鏡板の如し  
〔橋懸〕の横巾壹間余よして長さ定度ありしが今ハ定りなし其ウ、リ  
といふハ造るといふに同じ之を武者走ムシヤウシと云ふ陣中にて舛形へ通ふ路  
なり又舞台の側よク、マリ口あり是れを臆病口オビヤウシと云ふハ非なり是れハ  
着物のおくび形に附たる故おくび口といふ意なり

〔花道〕ハ花を植へし路の名なり昔ハ幅狭くして兩方に竹を以て高欄  
の如く埒を結ひたり又花道ハ兩側よ花を排列せしより之を花道と云  
ふ又観客より俳優の贈物に時の花を添て遣りより後世纏頭を花と  
云へり

〔鼠木戸〕櫓の下板壁よ小き木戸あり之を鼠木戸と云ふ芝居よ這入る

に背肩を屈曲して入ること鼠の穴に入るか如く因て名く又此口を相  
言葉の口と云ふハ屋中にて人舛へ出入するに相言葉を用ゆるよ因る  
舞台の後に一室を設く是れ舞樂の樂屋に準するなり

〔幕〕の事ハ詳しく延喜式に出たり幕を引く時ハ打といふ明けたるを  
「コハル」と云ふハ是れ我陣中よ幕打たると云ふ意あり敵方をはると云  
ふ今誤りて幕を引と云へり始めハ純帳といひて上げ下げなりしを市  
村宇左衛門之を引幕よ改めたり橋か、りよあると諸幕モロマツと云ふ倭語よ  
一双を諸モロといふの謂なり又橋幕ともいふ黒幕ハ佐渡島氏より初めた  
り

〔廻轉道具〕寶曆八年大坂角の芝居よて三十石船フネに始まれり

〔せり上ケ道具〕寶曆三年大西芝居よて傾城天の羽衣より始まりたり  
昔の兩道具立ハ山みすどて簾に山或ハ野立波田家の繪を畫きしが

正保の頃中村傳七と云へるもの始めて巧なる道具を作りたり

〔床〕正面の床を今の如く横に改めしハ享保十三年あり

〔幟〕最負より幟を立つるとハ享保六年國性爺狂言より始りーと云ふ

演劇

〔狂言外題〕演劇の脚本ハ原と多く物語淨瑠璃より由るが故に淨瑠璃の院本と直ちハ演劇の外題とせせるもの多く京都大坂の淨瑠璃坐及び操り坐を初め三都の芝居坐に於て古來演じ來れる外題ハ其類實ハ夥多しして其能く好評を得しものハ今猶ほ行ハるゝと雖ども其得ざりしものハ初回或ハ二三回にして廢れたるもの多く唯だ今日外題集等ハ其名のみを存するに過ぎず其最も著名しして今猶行ハるゝものハ二三を擧ぐれば大阪の竹本座の淨瑠璃より始まれるものよてハ碁盤太平記寶永三年國性爺合戰正徳二年曾我會稽山近松作檀浦兜軍記保

十五年鬼一法眼三略卷同文耕堂作年平假名盛衰記元文四年菅原傳授手習鑑出雲千柳松洛作年義經千本櫻同四年假名手本忠臣藏同寛延元年戀女房染分手綱松洛冠子作年源平布引瀧同柳松洛作敵討宗禪寺馬場寶曆八年作奥州安達ヲ原寶曆二年本朝廿四孝竹本三兵衛作太平記忠臣講釋竹田文吉作年近江源氏先陣館半次等作妹春山女庭訓同八年等比して同豊竹座より出でたるものハ油屋於染袂の白紋寶永八年八百屋於七戀緋櫻享保十七年一ノ谷嫩軍記宗助作並水正三等補年苜萱桑門筑紫綜享保二十年祇園祭禮信仰記阿契應律等作又大坂淨瑠璃理座操り坐等より出でし揚卷紙子仕立兩面鑑專介作桂川連理瀨同安永五年伊賀越乘掛合作安永五年木下蔭菰間合戰寛政元年小はる中元噺掛明和六嘉藏半兵衛初物八百屋獻立同作江戶淨瑠璃座にて初めし神靈矢日渡冠子等作戀娘昔八丈吉田角九等作鏡山舊錦畫天明二年伽羅先代

萩天明五年萩松貫作碁太平記白石斷同馬馬等年等皆有名にして久しく世は行は  
 る此外狂言作者の手に成りしもの頗る多しと雖今これを略す  
 〔狂言の種類〕 狂言を分つて三種とす第一時代物第二御家物第三世話  
 物なり時代物との歴史傳記等よて古代の事蹟を演ずるものなり御家  
 物は家中の騒動復讐の類世話物の民間に現出する事蹟を平日より異ら  
 ざる衣裳を着て演ずるものなり  
 〔三立目〕 今序幕の事を三立目と云ふは古昔の第一より序開きと稱し若  
 衆のみよて演せし幕あり第二に二立目又二ツ目と云へる幕あり第三  
 か即ち三立目なり是より狂言の發端とあるなり現今の序開き二立  
 目とも廢絶したれとも猶ほ舊稱を存して序幕の事を三立目と云へり  
 〔振附師〕 俳優の所作の振附師フツツシ之を作りて役者よ教ふ然れとも役者の  
 立者と稱せらるゝ者自ら之を作る事あり

〔鳴物〕 鳴物の雛子と稱す奥の口よて衆多の藝人鳴物を取りて之を雛  
 すあり又外座ソバとも云へり  
 〔チヨボ〕 劇場にて義太夫と語るをチヨボといふは元淨瑠璃本へ紙を  
 粘て其目印とせしより出でしなり義太夫語りのみをチヨボと語るに  
 あらず別よチヨボ語りなる者ありて眼目とも言ふべき場合よの出語  
 とをなして大抵は床の簀の内にて語るを例とす  
 〔女形衣裳〕 伊達衣裳を着せしは峯の小晒より以來唐織綾織を纏ひ始  
 めたり惣して女形衣裳の花美なるを着始めしは鳴門十郎兵衛なり其  
 頃の衣裳は紅の無地より白糸を以て大なるカブラ二個を纏ひたり又袖  
 の大ウチを鱗形ウロコガタと纏ひたりと云ふ  
 〔飾り物〕 芝居の表へ進物とあまた飾ることは享保十八年吉野忠信よ  
 り始まる

〔野郎帽子〕髪の風ハ時好ヨ因て變せしか承和の頃歌舞妓ハ立役敵役とも皆茶釜髪ヨ結び其上ヨ手帖を覆ひ女形に扮せしあり玉川千之丞ハ黒帽子を折り込みて被りてよりヤテン帽子と稱し絹の四方ヨ綾を折りしか水木辰之助といへる俳優縮緬ヨて風流なる帽子を作りたり髪ヨ紐を作るも此の辰之助ヨり始まれり又黒船頭巾ハ姉川新四郎ヨり始まりたり

〔前帯〕昔ハ前帯する事ヲかりしが明暦の頃東山邊の茶婢繁忙の余リ帯を後へ廻す遠なく其儘ヨて居りしヨリ其風傳播して竟ム女形は前帯する事となれり昔シ女形の帯は幅三寸五分四寸ありしが荻野澤之丞鳴神狂言の時幅廣き帯を結しヨリ専ら今に行はる

〔隈取〕役者の顔を紅若くは青黛を以て彩るを隈と云ふ暫く又梅王の顔の如き是なり隈には彩り方種々あれども之を略す昔の狂言ハ看客

として一見其善悪勇怯を知らしむるを以て目的としたるものなれば盜賊には必ず百日鬘を頂せ又大薩摩には必ず其顔を彩とる等斯る拙劣なること時好ヨ適せしあり

〔歌舞伎十八番〕世々名優の出つる市川團十郎の家にて演し來るもの十八番あり今其名目を舉れば

不破元祖團十郎始めて之を演す是  
ふこととを不動成田不動助六暫く  
脚色すは暫くの出で闘争等と止むる狂言なり  
呼はりなから出で闘争等と止むる狂言なり  
郎景清關羽七ツ面象引亨保十八年始めて長崎より象の渡  
象を造り引出鎌倉は象引亨保十八年始めて長崎より象の渡  
せし狂起るを鎌倉は象引亨保十八年始めて長崎より象の渡  
等古風狂言なり鎌倉は象引亨保十八年始めて長崎より象の渡  
戻す古風狂言なり鎌倉は象引亨保十八年始めて長崎より象の渡  
の退治勸進帳此外新十八番と云へるハ琴吟物語岡部六彌太郎鬼神

の卷鬼一法 蓮生物語 熊谷蓮生 桃山物語 加藤清 支那譚 吉備大  
 眞田張拔傷 眞田幸 雨の鉢の木 佐野源左 琵琶法師 景清 陣太鼓  
 酒井左衛門尉の事 重盛諫言 釣狐能狂言の 嘯  
 俳優

俳優の種類

〔立役、敵役、實惡、悪人形〕 立役ハ女形を除くの外實事仕敵役道外よ至るまで皆之を立役と云ふ又實事仕色事仕荒事仕等の種類ありて實事を少しく和げたるを和實と稱せり敵役とハ假へば信玄謙信合戦の如く孰れを悪人とするにあらず互よ對敵するを指せし名なり昔ハ悪人形といふて敵役といはざりしが元祿の頃より敵役と誤りたり然れどもかたき役と讀まずしててき役と讀みたり

〔親仁方、花方、若衆方、子役〕 親仁方の事の江戸よのみ其名存して京大阪

ハ絶へたり又昔しの若衆方ハ半立役なり故後年に至りて皆立役とありしが若衆の風淫靡の体を變ぜしより若衆方ハ往々女役よ轉せりと云ふ又此若衆をやらうといふは艶治郎の省略にして若衆の前髪を剪りてより此名起りしよはあらずと云ふ

〔道化、半道〕 道化ハ古書に道戯とも書して昔し女役者の演劇ハ重に舞の插戲とあり看客の笑嚙を取るを目的となしたり又半道といへるものありしが是ハ實事好事の中間より忽ち調子に合はざる言といひ看客をして失笑せしめしが正徳の頃より廢れたり

歴世名優傳

元和以來著名の俳優を年次よよりて列擧すれば元和よハ坂田藤十郎 中村勘三郎あり勘三郎ハ江戸芝居の元祖にして京師より江戸よ來り浪人を糾合して始めて中橋ハ劇場を建てたり寛永より寛文の間にハ



中村七三郎河原崎權之助森田勘彌市村宇左衛門等輩出、延寶に上村吉彌中村富十郎二世勘三郎の名優あり富十郎は大坂女形の名手なり四代目富十郎も亦た女形の巨擘と稱せられたり天和貞亨元祿に三世勘三郎四世勘三郎二世藤十郎森田勘彌生島新五郎嵐三左衛門市川團十郎及び狂言座の座元岩井半四郎等あり嵐三左衛門の古今の名手と稱せられ小夜嵐の狂言より略語を嵐々と呼ばれ終に己れが姓と爲したり市川團十郎荒事の開山なり其初めて舞臺に出るとき紅粉を以て全身を塗沫<sup>スリ</sup>去荒事を云ふ事を始めたり現今市川家傳ふる三つの刀あり元祖團十郎が暫らくの時佩びしものなりと云ふ團十郎鼓打役の杉山半之丞に怨まるゝことありて幕引の時刺殺されしかば二世團十郎狂言用ふる刀を以て其仇を舞臺に於て擊殺せり大谷廣次片岡仁左衛門寶永の時盛名あり仁左衛門といれ石太平記と云へる

題にて古風の忠臣藏を演じ大に時好に適せしといふ正徳享保に二世團十郎始めて助六矢の根五郎ういらう賣等の狂言を演じ大に名譽を博したり初め團十郎其名譽を顯さんと欲し成田不動尊を祈りしが後ち靈現ありとて竟に家名を成田屋と改む團十郎の親友よて寶悪の名手松本幸四郎の外同時の俳優に市川門之助市川團藏中村清三郎中村治郎三三世藤十郎四世仁左衛門なり門之助の少年を扮して名譽あり治郎三の敵役の名手清三郎の狂言作者をも兼ねたり元祖團藏の曾我五郎の役得意よて毎に好評を得たり元文に三世團十郎澤村宗十郎二世勘彌あり寛保より寶曆に至る名優に大谷友右衛門大阪よて敵役の祖大谷廣右衛門及び二世宗十郎瀬川菊之丞中村重笠大谷廣次市川團藏同八百藏藤川武左衛門嵐離助尾上菊五郎等なり菊之丞の大坂よて有名の女形なり當時瀬川帽子といへるもの流行せしが是に菊

之丞が武士の女子を扮せし時始めて被りまかば瀬川帽子と名づけられたり藤川武左衛門も大坂の俳優なりしが頗る義氣あり後江戸に下りて森田座の衰頽を起し當時の名手と稱せらる元祖尾上菊五郎の初め京師よて若衆形なりしが江戸より梨園シバイニラビキ中屈指の立役となれり明和より天和に至る俳優にて坂東彦三郎の大經師茂兵衛といへる狂言を以て其名を擧げ元祖中村歌右衛門の「キノニ」といへる狂言を始め後に加賀家の中村家の号常狂言となれり大坂の俳優嵐吉三郎も亦た早川又兵衛岩川治郎吉の狂言にて喝采を博せしより此二藝を家の狂言となしたり四代團十郎の希世の名手と稱せられしが性水石を愛し深川に隠居す人之を木場の親玉と稱せり又中村富十郎の大阪女形の名手よて四代も亦女形の巨擘と稱せらる世に之を難波太夫と云ふ此他市川八百藏坂東三津五郎二世菊之丞三辨大五郎七代仁左衛門中村里好藤

川友吉等あり友吉は大坂よて立役の名手里好は平假名の松右衛門と演じて喝采を博せしかば人之を松右衛門と呼びたり松右衛門は俳優我重と云ひ大坂の俳優あり其頃板屋勘兵衛いた勘兵衛等の言葉流布せしは仁左衛門が栗鳴門の狂言よて板屋勘兵衛の役を演ぜしより起りたり寛政享和の間にハ風流才子を以て稱せられたる白猿即ち五世團十郎出て當時技藝を以て三都よ鳴る而して六代ハ登世せり中橋の綽号ありハ仲藏ハ濱芝居の大立者あり二世吉三郎ハ容貌美麗よして聲音爽りなり加之技藝最も絶妙なるを以て大璃寛と稱せらる其他二世歌右衛門澤村宗十郎等あり九代中村勘三郎ハ同家中興の祖と評せらる文化文政の頃にハ五世離助三世團三四世八百藏三世菊五郎女形にて有名の元祖澤村田之助三世彦三郎五世菊之丞五世男女藏三世三津五郎關三十郎四世大五郎市川蝦十郎關助壽郎等輩出したり皆一世

の名優あり就中菊五郎ハ怪談狂言を始め其の四ツ谷怪談の如きハ尤も看客の目を驚かすめたり蝦十郎が狂言中人口に膾炙するは宗禪寺復讐の狂言なり蝦十郎ハ生田傳八郎の役にて其仕打の殘酷ある見ると忍びず竟に烟草盆を以て之に投げ付けたり蝦十郎其の烟草盆を頂き斯ハ敵討の本旨に協へりとしていひしと云ふ三世三津五郎ハ本朝丸綱五郎の狂言を演ずるとき土間へ水舟を作りて水試合を作し大に高評を博えて當時名望ありし俳優なり其四世も亦た大立者となりて其の名諺がし三世彦三郎ハ菅蒸相白太夫源三の三役よて喝采を博せしかバこれを終局として剃髪し遂に佛門に歸依す天保弘化嘉永の名優ハ四世團三嵐璃寛三世三津五郎五世松本幸四郎七世中村歌右衛門五世團藏七世團十郎中村芝翫四世菊五郎二世蝦十郎市川小團次四世彦三郎八世團十郎等なり團藏ハ濱芝居よて初めて八陣の正清其他三十

三間堂の平太郎等の狂言を仕組みしが嵐璃寛も此八陣の正清及び伊賀越十兵衛の狂言よて其名を顯はしたり璃寛効名を徳三郎といひ短小よして眼大なるを以て人之を目徳と呼ぶ市川小團次ハ始めて佐倉藤五郎の新狂言を出し是より名手と稱せられ江戸一方の大立者となる二世蝦十郎も薄雪團九郎の狂言を以て大に喝采を博したり大坂よて梨園壇上に旗を立てしハ中村歌右衛門の養子芝翫なり當時官俳優の市街に雜居するを禁し盡く之を難波新地に移す芝翫以爲らく是れ猶ほ吾輩の居るべき所よめらずとて乃ち長町に轉じ乞丐と雜住す官之を義とし錢若干を賜はりたりと云ふ七世團十郎ハ能辨の評あり花川戸助六の狂言を演ぜし時吉原より屢々蛇目傘を贈られ積で山を成るたり人之を未曾有の事となす後故あつて江戸放逐を命ぜられしが其子八世團十郎の至孝上聞に達して褒賞せられ爲す赦免せらるゝを

得たり八世團十郎ハ荒事和事實事を兼ね江戸第一の花形と稱せらる  
 後ち大阪より招聘せられ同地ニ赴きて變死せり人皆惜まざるものな  
 一安政万延より慶應明治に至る間名優最も多き當時大阪ニ嵐璃寛あ  
 り璃寛ハ女形の巨擘と稱せらる其門人璃珪曾つて璃寛ニ代りて大塚  
 信乃を演じ大に其名を顯ハす是より三都ニ於て狂言毎に好評を得た  
 りと云ふ中村福助も大坂の俳優にして四世歌右衛門の養子なり後ち  
 江戸に下りて成駒屋の一派を起し一方の花形と稱せらる其他三世吉  
 三郎、六世雛助、三世三十郎、大谷廣次、五世彦三郎、三世田之助、市川高麗藏  
 岩井半四郎、尾上多見藏等皆各著名の俳優なり就中五世彦三郎ハ聲音  
 快爽にして容姿あり加之技藝巧妙當時名手を以て鳴る田之助も亦有  
 名の女形にして曾て脚疾を患ひて遂に不具となる然れども尙ほ他人  
 の肩ニ倚りて其技を演じたり尾上多見藏ハ近世稀有の老優にて其名

聲最も高く中村仲藏ハ老功無類と稱せられしが皆没しぬ現在の俳優  
 中にて九世團十郎の如きハ空前絶後の名優よて學識あり技量あり實  
 一梨園の泰斗と稱すべく又俠氣の風ありて技藝の最精密なる五世菊  
 五郎潤達豪壯の譽ある市川左團次歌舞に長し所作も巧なる中村芝翫  
 品格の優よして才藝ある中村宗十郎等皆當世ニ鳴る其他名優多しと  
 雖一々枚舉し暇あらず

作者

淨瑠璃作者

昔ハ定リタル淨瑠璃作者といへるものなく俳諧師等の手に在リたる  
浪花の俳人井原西鶴といへるもの始めて曆と名けし淨瑠璃及ひ凱陣  
八島といへるを作りたり西鶴ハ梅翁ハ門人よして大坂談林の一人を  
リ淨瑠璃作者の巨擘と稱せられたる近松ハ此人の門人なり  
近松門左衛門信盛ハ長州萩の人なり京師よ來リ仕官して六位よ叙せ  
らる元祿のころ官を辞して京の歌舞妓座都万太夫及宇治加賀椽井上  
播磨椽等の爲めよ淨瑠璃を作り元祿三年正月大坂よ下リ竹本義太夫  
が爲めに多く淨瑠璃を作りて大に其名を顯したり近松が名作多き中  
よ出景清ハ同人が在京の時義太夫よ送りしものよて最も初年の作な  
リ小万源五兵衛ハ元祿十七年の作よて是れ世話狂言の始めなり其後

國性爺を作り正徳五年十一月竹本座に於て三年越十七月續きて興行せり是れ段續きの初めなり義太夫に正徳四年に死し近松に享保九年よ終り近松に次て淨瑠璃作者の錚々たるに竹田出雲なり竹田出雲に享保の頃より自ら淨瑠璃を作りたり其傑作と云へる天神記に延享三年八月三好松洛並木千柳との合作あり忠臣藏も亦三人の合作なり現今存する時代のものにて十余段も續きたるに此時代の作多し其他竹本座豊竹座の淨瑠璃作者よて有名なるもの錦文流竹田伊豆竹田因幡並木永助並木宗輔田中千柳爲永太郎兵衛等數多あれとも之を略す

## 狂言作者

昔時の淨瑠璃作者よして狂言をも兼て作りたるものありしが京都にて狂言作者の元祖といふべきに並木正三なり正三も初の淨瑠璃作者なりしが後よ狂言作者となりたり其初の作に寛永元年一夜附の狂言

なり又村山又兵衛の座に杉三平盤屋九郎左衛門の座に近江屋久四郎といへる作者ありしが是より有名の作者續々輩出したり大坂にては近松門左衛門都万太夫の芝居にて藤壺の狂言を仕組み一機軸を出して大に世の喝采を博したり又花車形にて有名なりし彌五左衛門といへる人從來の離れ狂言を改作して二番三番の續き狂言を仕組みしといふ

江戸最始有名の作者に津打治兵衛岡清兵衛なり治兵衛當時の名優市川海老藏と狂言の筋を論ぜしことありしにば當時淺草觀音の繪馬よ其取組を畫かれしといふ此頃の狂言に俳諧師等の手に成り或は俳優自らも其狂言を作りたり俳優にて狂言を作りしものには姉川四郎市川團十郎市山助五郎中村七三郎等あり近松よ亞くへき狂言作者に東三八なり三八は能く人情を穿ちたる狂言を仕組みしといふ正徳享保の

頃江戸狂言作者より中村傳七といへるものありしが理論上より狂言と  
 案し珍奇なる道具を作り看客の目を驚したり就中墨田川と題する狂  
 言より兩國橋より三圍の堤まで凡そ一里許もあるべきと想像さるべ  
 き大道具を引き大よ喝采を得たりと云ふ其他今に至るまで歴代の作  
 者一々列擧するに違あらず當時狂言作者の擔當ハ狂言全体ハ筋立を  
 なし本讀み(狂言の仕組を俳優よ)の(讀み聞かひるを云)の(後)ち正本を抄出して俳優よ與へる  
 等各分擔あり又芝居興行中ハ自ら拍子木を打ち幕を揚げ其他舞台及  
 ひ道具の排置機械の運轉に至るまで一切の事を監督するものなり

## 西洋演劇史

### 總説

現今歐洲を行へる、演劇ハ概ね古昔希臘の演劇を摸擬して是より漸  
 々發達せしものなれば其本源ハ迦れハ希臘を以て濫觴と爲すべし今  
 希臘古代人智幼稚の時の演劇と其智識發達せしときの演劇とを比較  
 すれば演劇ハ世運の開否に伴隨せるものにして即ち世態の反射物な  
 ることを知るよ足れり近世歐洲演劇の發達も其原質たる世態の發達よ  
 職因せしとされば演劇をして眞正の美術たらしめんと欲せば反射物  
 たる演劇と其原質たる世態の關係を考究せざるべからず因て各國演  
 劇の一斑を記載して其參考よ供すべし

### 各國演劇

#### (希臘)

古昔希臘ハ文物典章の隆盛を極め歐洲文明の淵源たる國なりしか其

演劇の起原ハ「パッコス」ト稱する神祭ニ其信徒等羊を以て牲贖となり葡萄酒の濁滓を面部ニ塗り又粗末なる假面を被りて混雜ある舞蹈を爲せしとありしが是れ其起原なりと云へり夫より「セスピス」と云へる人所々を徘徊して演劇を爲したり宛も我國の傀儡師が諸國を徘徊するが如き有様なりき紀元前「エツシロス」帝の時始めて假りに木造舞台を造り演劇を興行せしと観客衆多よ及ひて爲めに劇場破壊せり於是經營數十年よりて雅典府よ石造の大劇場を建築せり其他小亞細亞「シリ」等の諸國よても各劇場を建立したり今に至る迄其舊蹟猶存せりと云ふ初め希臘よてハ各所よ演劇場ありと雖とも建築粗造よして雨露を凌ぐに足らざりしが漸く宏壯ある劇場を建築するに及ひ從て木戸錢高價よ至りより「ベルクル」と云へる執政官ハ大演劇興行のとき下等人民よ至るまで悉く觀物せしめんと欲し命して其木戸錢を低價



緑牙摸寫

緑の



よせしめ其不足の軍用金の内より之を補助せしむ云ふ

### 羅馬

羅馬の希臘の文物を輸入せし國なれは其劇場も希臘に模倣して數ヶ所の建築ありしが初めの皆木造の建築なり然れども希臘より高大にして善美を尽したり紀元前五十八年よりの「エシロス」と稱する劇場を建築したり此劇場の壯大なるを八万人を容るゝと云ふ後ち三傑の一人たる「ポンペー」か「シスリダテス」と戦ひ凱旋せし時石造の劇場を造りしが是れも亦四万人を容るゝと堪へたりといふ其他猶二個の著明なるものあり「コメリユス、ハルホス」の建築したるものと「ヂユリス、シイサル」の創業より「オウゴスタス」帝の時より漸く落成せしものとなり昔時羅馬の人民は他國を攻撃侵略すれば其都會より必ず劇場を建立したり其古蹟のもの「エピメス」「トラレス」羅馬馬耳塞劇場「ミレ

トス」「スパルタ」「セラキユス」「アスベンタス」「タンドス」「フヘロス」ありて至る所に演劇場の設ありて劇場奏樂所は各國の使節及び上院の議員紳士貴人の居る所となりて盛大を極めしか中世に至り劇場は無用視せられて衰頽を極め現今に至りても歐洲中最下等に位せり羅馬の演劇行はれざる頃「ドリニテ」連なる者佛京巴里に於て劇場を建築し上院の命により宗教法律道德より不良の影響を及ぼさざる限りは興行を許されしと云ふ

### 伊太利西班牙

伊太利西班牙の二國劇場の始めは廢邸空地等より於て圓形の棧敷を掛け劇曲を興行せしが一千六百年の頃伊太利よりの文藝隆盛より趣きしより自から戯曲劇曲劇場も從て盛んあるに至り「ハラデヲ」なる者「ウイシセンサ」の「オリンピック」及「ヘネス」等の劇場を建たり是れは希臘の劇

場を模擬したれども從來劇場の模範となりしと云ふ其後「アレヲツチ」なる者「パラマ」の劇場を作り始めて裝飾の道具を用ひ種々の機關を設けて舞台の体裁を整へたり

## 佛 國

英佛二國の如きも初めハ玉突場の庭前等に板棧敷を設けて演戲せしか其技藝の進歩に隨ひて宏大なる建築をなすに至り一千六百年の初め巴里に於て「ホテルホルゴン」の劇場を建て後ち「リセリウ」ルイ十四世の宰相巴里の「ローヤル」ハ大劇場を築きたり近世五大洲中雷名を轟いたる劇場の巨擘と稱すべきものは巴里の「ニユーグラント」あり其工事ハ一千八百六十年ハ始まり全七十五年ハ至りて漸く竣功す此の劇場ハ那破翁三世ハ列國王侯貴人の遊覽に供する爲めハ作りしものよして建築の費用ハ政府これを負担し大約五百六十万弗を費したりと云ふ現場の

坐席ハ二千百九十四個ありて舞台の幅員ハ一百ヒート奧行ハ二百二十ヒートよして奏樂人七百名を招集するハ足り又遠く隔りたる所ハハ尽く座敷店舗等櫛比して看客ハ充分の娛樂を與へ其出入の迅速機關裝置の整備裝飾の美麗あると各國其比を見ざる所なり

## 支 那

支那ハ於てハ村落に至るまで劇場あらざるなく都會ハ在てハ種々のものありと雖も機關道具立等の裝置ハ絶へて無し故に劇場の名を下すべきものなく看客ハ毎に大氣中ハ曝るゝと一般なり之れハ加ふるハ臭穢なるを以て他國より至るものハ甚だ堪へ難いと云ふ又其劇場の費用ハ偶々官吏或ハ豪家より寄附するとあるとも大抵ハ近隣の人民連合して支拂ふと云ふ而して其演戲ハ憂喜愛欲意を惱まして人を感動するをなく只た勸善の意を寓すると云ふハ過ぎず

## 亞米利加

亞米利加合衆國は於て一千七百五十二年「ウヲルシニヤ」州の「ウイリヤムスボルク」に設立したる劇場を以て冠首となす是れより新約克及「アンナホルリス」「アルパニー」「ボルチモール」等所々劇場を建築せり合衆國にてハ劇場の觀場座席の順序等は大に整理せしかば俳優の發言ハ充分明瞭に觀客に達すると云ふ

## 英國

英國古代の劇場ハ千百十九年僧「デオフライ」なるもの「ドンステープル」と云へる小都會に於て演劇を爲せしが宗教信者の諱忌に觸れ演劇を廢滅せらる宗教不信者たる「サキツン」時代ハ滑稽師等衆人を招集せしものありしが終ハ神を敬せざる戯曲或ハ演戲流行せしより僧徒に至るまで之を寺院へ招きて演せしめ又自ら戯曲を作り或ハ演戲を

爲すに至りしかば高等寺院の評議官「クロベルシヨ」なる者王命を奉し之を嚴禁したり此より演劇ハ經典中の神譚或ハ怪異なることのみを演じたり此等の劇場にして希臘の典型に倣ひ建立したる「ピラントラウンド」と云へるハ今に至るまで其の舊蹟存在せり第六世「ヘンリー」王の時より演劇勢力を得て一般人民も大に之れに意を傾け王侯貴族大に俳優を寵愛して一社を結ばしめたり「リチャルド」王第三世の代にハ俳優に臣下の名稱を賦與せられたり其後ハ演劇ハ宗教上争論の機關となり益々勢力を得たり千五百七十六年女王「エリサベス」の時代に至り不用なる寺院に於て演劇を興行したり此演劇場ハ「レストア」に屬し「ゼームスホルベージ」之が主宰たり是れ英國正統劇場ハ起原あり自來劇場ハ寺院と一致せしより俳優ハ王侯貴人及僧徒の保護を得其隆盛を極めたり千五百六十四年より全九十三年間「セキスピヤ」の名聲盛を

りし時迄の劇場の政治家及び高位の僧徒の指揮を受けしより法教師長「グリーンダル」の令を出して俳優の性行を羈束し又府會議員及裁判官より俳優が随意に演劇興行の權あるを不當なりと爲せしより演劇衰頽の色を顯はせしかば俳優の大に憤懣して演劇に於て彼等を愚弄したり其後再び紳士貴女より愛顧せられ演劇再興の基を開きたり昔時の俳優の偃蹇倨傲にして王侯を蔑視し宗教國政に關することを恣に演せしより一時の停止を蒙り或は嚴重なる監督を受しかど俳優の之に服せず傲然演劇を行たりと云ふ千六百十六年有名なる「セキスピヤ」の死去せし後の大に勢力を失ひし劇場もありしが「クローブ」の劇場此時新たに建築したり其劇場は六角形にして木造なり尽く屋根なくして中央に庭園を設け看客の逍遙所と爲し三面を圍繞して看棚を設けたり惣て千七百年頃までの屋根なき劇場の開場は午後一時なりしが

終よハ三時を以て最好の時となしたり英國に於て始めて道具附の演劇を興行せし所の「シヨルデッチ」あり又第一世「チャレス」王の代よて有名ありしもの「コルデン、ロード」劇場なり其他前に王侯貴人の愛せし「プラツク」「ライヤス」ナリ「ゼームス」王の時よハ安息日即チ日曜日と雖ども「ホフイトホール」「スリンウイチ」或ハ「ハレムトン」等にて演劇を見て歡樂を尽されしより不信神の心を惹き起せしとて「ヒユウリマン」宗信徒等ハ尤も憤怒の心を發したり第一世「チャレス」王ニ至り龍動府内よ五個所の劇場を限りて允許を與へ其演劇は必ず道德を重ぜざるべからざる事となりたり然れども尙ほ宗教信徒等満足せずして飽きて大改革を爲んとを請願したり千六百四十七年上院の「ヒユリマン」信徒の議官は若し俳優よして其制限を犯し演劇を興行するものあらハ杖罪を以て処分すべき旨を布告せしよ俳優は之に服せず之と抗争せしが遂

敵せずして四方を散亂せり此時一黨あり私かよ「ドリュエレーン」の  
 「ゴックピット」よ於て演劇を興行せしに其興行纔か三四日よして俳優  
 の皆捕縛され家屋は兵士の爲め破壊せられたり然れども此俳優は  
 更に屈せず再び放免せられし後ち又所々の旅館或は貴人の邸宅へ聘  
 せられて其戲を演じたり其後「ホソイトホール」の高官よ賂ひ劍術跳舞  
 等の名目を以て興行したりしが千六百六十三年第二世「チャレス」王の  
 龍動府内よ於て二個の劇場を許し一を王社と稱し「キサグリ」なるも  
 の之か長たり一を侯社と名け「グベナント」なるもの之を主宰となれり  
 「グベナント」の廻轉道具并に新らしき裝飾を用ひし元祖なり彼の「セキ  
 スピヤ」の如きも掛懸及び幕の外に未だ道具機關を用ひざりしと云ふ  
 王社侯社の外二個の小劇場ありて少年子弟を練習せしむる所とす之  
 を教養場と名け正統なる俳優をして其伎を參觀せしめたり一は王社

に属し一は侯社に属したり千六百六十一年「ベツカル、ブツシユ」の劇場  
 よて一の女優出しまで有名なる「ケナストン」と云へるもの能く女形  
 を勤めしと云ふ又是より前佛蘭西より渡海したる女優龍動に於て間  
 や演劇を興行したり第一世「セームス」の王妃「アンネー」の最も女優を愛  
 し又劇場の風を改良せんが爲め各俳優は若し宗教道法に背戻したる  
 事を演ずるときは直ち之を停止することとし其劇場は開せざる者  
 は切りに戲房に出入し或は演劇中舞台へ出行するを禁したり其他不  
 潔なる假面を被るを廢し制限を立て大に舊來の面目を改めしが幾何  
 もなく其後女王自ら不正の演劇をあせりより此法令行はれずして亦  
 隠語或は諷刺を以て國政を諷刺する演劇大に流行せり千七百三十七年  
 貴族「チエス、フイルト」なる者劇場の敷を制限し亦免許法を嚴よし「ウイ  
 リヤム、チエツトウイント」と云へる人を支配官とせり此官は現今猶存

在せり英國よ於て當今最も流行する所の劇場ハ「ツルレー、アストレー」及び「ビクトリア」あり「ヘーニーケット」ハ最初夏劇場と稱せられしが今ハ時候に關せず年中開場せり龍動よ於て最も新らしきハ「ストランド、オリンピック」劇場なり此他「ミットルセツキス」近邊の「ドリヒツク」及び「ユベレトガーデン」或ハ西北隅に當る「セントゼー、ムス」マレホン等の劇場あり「ホキソソ」街の「ブリカヌニカ」及び「ホワイトチャペル」の「パベリヨ」ハ希臘劇場と稱せられ西部の地方にある劇場よりの尤も好評あるものなり今英國及世界各國にて最大ある劇場よ於て現衆の容るを得べき數を掲載すべし

- 英國 倫敦府ニニパベリヲソ  
ホワイトチャペル (三千七百人)
- 同トリニレー、チソ (三千五百人)

- 同女帝臣下ヘイマアケツト (二千五百人)
- 同コベントカアデン (二千)
- 伊國 美蘭府ラ、サカラ (三千六百人)
- 同子ーブルス府サンカロ (三千六百人)
- 同ベ子ス、アラブヘニス (三千)
- 同ヂユリン、ローヤル (二千五百人)
- 同フロレンス府ラ、ボコダ (二千五百人)
- 獨乙 ミニヒロヤール (二千五百人)
- 魯國 聖彼得斯堡府ボルシヨイ (三千)
- 米國 伴斯頓府劇場 (三千四百人)
- 全貴位抵兒比亞音曲稽古所 (二千八百五十人)
- 全プロレクレン音曲稽古所 (二千二百四十三人)

全新約克府音曲稽古所	(二千百六十八)
佛國 巴里府グランド劇場	(二千百九十四人)
● 全アンペーク、コミック	(二千九百人)
全ホルト、セント、ヘーデン	(二千八百人)
全イタリアン劇場	(二千七百人)
全リ、レク劇場	(二千七百人)
全ラテラン	(千六百五十人)
全オペラコミック	(二千五百人)
劇曲及作者	

總說

戯曲ハ人生本來の感動よりして自然に起るものあり往古野蠻の時と雖も其土人等ハ事ハ觸れ物ニ感して種々の体勢をなし或ひハ爭鬪跳

舞等の有様に假慕せしより此戯曲と云へるもの發生し來りしなり故ニ英國の如く他國ニ摸倣して戯曲を作りし國あれども又自國固有の戯曲あり而して他國と交通するよ及び其戯曲ハ他國の戯曲と混交して進化し來るもあり又或ハ單ニ自國固有のものトミとして現今に至るも猶ほ他の侵染を受けざるものも鮮からず然れども希臘の如きハ歐洲戯曲の本源なれば先づ希臘より叙し去るべし

希臘

希臘の戯曲ハ古ハ「ハッコス」の神祭ニ唱歌せしより遂ニ物語をば科語よて演じ初めて悲戯或ハ滑稽戯の端より開きたり悲戯ハ嚴正格實を旨とし滑稽戯ハ諧謔を主としせり而して悲戯ハ三段ニ分つ第二「アガメノン」「トロイ」の圍を脱して歸陣し其妻「クレステム」子「ストラ」の手ニ係りて死すると第二ハ「アガメン」の男「オレステス」父の復讐を爲すと第三ハ

「オレステス」此事よりして追放せらるゝとあり

羅馬

羅馬にてハ昔シ「シ、イ」と稱する一種の戯曲ありしが是ハ「エトロスカ  
ンス」と云ひ一人民の演戲を作せし特に作りしものあり然れども其他  
ハ尽く希臘の戯曲を及記模擬したるものなり「アッセス」及「パルユキ  
ヒス」の二人ハ悲戯を又「プラトス」及「テレス」の二人ハ滑稽戯を羅馬へ  
移し傳へたり羅馬帝國衰ふるよ及ひて戯曲も亦衰微したり現今歐洲  
に行ハるゝ戯曲ハ概ね皆希臘等より傳來せしものなり其自國固有の  
ものゝみよして他國より其戯曲を輸入せざる國ハ支那及「温都斯坦  
なり

支那

支那演戲の戯作ハ古代より編成せられ其戯曲ハ默戲默戲滑稽戯等

の別あり其正統なる戯曲ハ長く連續するもの多くして短きもの甚だ  
妙し其主意とする所ハ言行録或ハ奇人傳記等の實事虚事なり其最も  
長きものハ十日間も續くと云ふ

温都斯坦

温都斯坦の戯曲ハ多く梵語よて書きたるものありしが後ち他國音と  
混合して編成せり其戯曲ハ滑稽戯悲戯の別ありと雖とも變應儀式等  
の事あるよあらざれば之を演ずるとなしと云ふ又印度よ於ても一千  
四五百年の頃ハ伊太利演戲盛に行はれ隨て戯作者も大に熟達した  
りと云ふ

伊太利

伊太利の戯曲ハ古典を模範として作りたるものを起元とす一千五百  
十五年「ナリメセ」の「ソフラスパ」と云へるは最も古き演戲よて後世の



龜範となれり後ち「カルリー」と云へる有名の戯作者ありと雖とも詩歌  
 よ類似せる戯曲を作りて其本体を失へり當世紀の始め「メタスマシメ」  
 なるもの出て大よ戯作を増補改良せり又滑稽戯ハ下等の人民より起  
 りしものにて假面を被りて演じたり當世紀の中頃有名なる作者「パ  
 ンロン」及ひ「コルトミ」等出て之を真正の劇場に興行したりと雖とも漸  
 々衰退して當時ハ古典よよりたる佛國戯曲を變して悲戯を再興した  
 りと云ふ

## 佛國

佛國にてハ一千七百年代の中頃「コルニール」と云へる作者出るまでハ僅  
 かに希臘傳來の下品なるものありしが「コルニール」出るよ  
 及んで西班牙の戯曲を析衷して好戯曲を作り次て「レーシン」及ひ「キ  
 リーウ」等の作者輩出して悲戯の進歩を爲せり又「モリー」なる者西班牙

の戯曲を取捨して滑稽戯を作り是より戯曲盛よ流行して他國の摸範  
 と稱せらるゝに至れり

## 西班牙

西班牙ハ其文學の上進諸國と異りて他國より裨補せられず一個獨立  
 の端緒を開きたる國なれば一千四百年代の頃よ於て既よ源を開き「テ  
 セレステナ」と稱する作者嘲嘘小説怪異等の戯曲を作たりたり一千六百  
 年代の滑稽戯ハ家畜を飼養する所の男女の唱歌よ似たるものなり又  
 挿戯ハ<sup>アイノキョウケン</sup>黒人種の農事の有様を演じたるものなり昔時此國の滑稽戯ハ  
 神聖の傳及ひ聖禮の事或ハ勇者の傳記等を演せしものにて滑稽嘲嘘  
 の事よあらず而して多くの有名なる作者「ロープウエガ」及び「カルデル  
 ン」の手に成り其他ハ自國固有の著作或ハ佛國の著作を摸倣したるも  
 のなりと云ふ

## 英國

英國の戲作ハ重に希臘より取りしものなれば始めハ概ね宗教に属して神奇及び道德のみに係れり其「ニコストム」ニコストムと稱せらるゝ者ハ一千五百七十三年より出版したり夫より種々の悲劇滑稽戲等ハ古代の經典を模範として作りたるものあり又歴史中の珍奇なる事實を採りて戲曲を組織したるものあり彼の有名なる「セキスピヤ」の作も希臘羅馬の事ハ係るものよて大抵ハ封建時代の事を脚色せしものなり而して是頃までハ戲曲も一國の文學として珍重せられしが其後國內の變亂ありて戲曲も亦從て衰へたり「チャレス」王第二世海外より歸るよ及んで佛國の摸型よより新戲曲を作りたり是に於て始めて悲劇滑稽戲の區別判然たるよ至れり滑稽戲の挿戲ハ祭禮或ハ宴會の時興行するものにて「ヂョンペーウード」と呼へる有名なる作者の發明に属せり凡そ

「ラルゴン」時世の戲曲ハ佛語或ハ羅匈語を以て書きたりしが「フランタヒチツト」の時代「エドワルト」王第三世の時より悉く英語よ改めたり而して其戲作ハ今よ至るまで古代のものを尙へり近世巨魁とも稱せらるゝ「リットン」及「テニソン」等起ると雖も猶ほ昔の作に及ばずと云へり

## 日耳曼

日耳曼の戲曲ハ英國古代の摸型よ擬ひしものよて佛英西等の諸國の如き數百年の經歷よ成りしものよ非ず其日尙ほ淺しと雖ども著しき進歩を爲し近世歐洲中第一等の名譽を占めたりと云ふ之を要するよ近世歐洲大陸よ於ける戲曲ハ羅馬帝滅亡の後數百年間戲曲全く衰頽よ趣き中世に及び再び經曲神談或ハ怪談等を組織せし戲曲時々寺院よ於て敎式の中間よ演すると歐洲南地よ流行せしより再興の勢を顯ハしたり當時ハ我國足利時代に田樂の作者等ハ僧侶の手よ成りしと

全しく僧侶の外古典も通するものなかりしより戯作の業も亦自ら僧侶の手も歸したり而して文運の隆盛に際會し伊太利佛蘭西西班牙英吉利等にて戯曲の恢復に遭ひ稍々勢を得るも及べり併伊佛の二國の古典を基礎として之れも中世の風習感動を混して作り英西にては彼此を折衷し歴史傳記を交錯して一層完全に至りしと云ふ

各國俳優

歐洲にて俳優の起原は紀元前百年の頃なるべし其最も古は希臘の「ソロモン」帝の時代にあり當時の俳優は寺院の定法も遵ひ重大なる權力を有し公費を以て其伎藝を學ぶの資と爲すを得一般世上の尊敬を受け外國使節等も派遣せらるゝに至れり其後寺院と分離して獨立の地位も立つも及んで忽ち衰頹して振はざるに至れり羅馬の俳優は初め滑稽師より起り「ニール」帝の時より大に聲譽ありと雖ども共和政体の



劇藝堂  
Quekiyado  
Matruka

立に及び人若シ俳優となりて舞台よ上るとあれハ宗教上より社會を放逐せられ警視官より撰擧權を奪れて公權を失たり希臘ハ寛大ある處置を以て俳優を待ちたり英國の如き希臘ヲ類する所あり英國の「カリツク」及び「グンブルス」の如き名優輩出するに及んで從來俳優社會一般ハ蒙りし汚辱を雪きたりと雖ども近世ハ至る迄男女の別なく俳優ハ下流のものとなりて社會の「ベリヤ」下賤の稱と呼ばれしが文運の發達するに從ひて俳優も亦通常一般の職業と見做さるゝに至れり昔時の俳優ハ尽く男子のみにして女役ハ常ニ少年或ハ陰囊を切斷せしもの、み演したり其女優とありハ中古佛國を始めとす昔羅馬よてハ婦女の演劇を禁したりハ爾後男女の二種に分れ或ハ女優の男優を壓する勢ありしと云ふ千五百年の頃ハ男優の女役を演せしもの甚だ熟練せしものありト云ふ而して此頃始めて英國に渡りし女優ハ

概ね娼妓の如く淫を鬻ぎしものあり故に「チャレス」王第一世の妃ハ法館よ於て戯曲を演せられしことありトを以て大に世の非難を受けたリ千八百年代の頃ハ劇場を一層盛大にいたらしめたる俳優ハ多く前世の人あれども千六百五十九年より同七百十年の間に於て最も名望ありしものハ「ベテルトン」あり而て新演劇の數ハ百三十の多きに至りたれども今存するものハ僅に二個のみ千七百八十三年より同八百十七年の間龍動にて大ニ名聲ありし俳優ハ「デヨンケンブルス」なり米國新約克の女優ハ其初宗教上より規制せられて上等社會と交るを禁せられしか漸次その伎藝の進歩と共に勢力を得て宗教の規律を脱したリこの女優ハ大抵不品行のもの多し然れども中ハ學識ありて新作等を出し大ニ世の喝采を博し文學上に利益を與へたるものも少からず故ニ多少の勢力を有し間接直接に社會を動すとありて其功勞も尠

からず是を以て各國より米國女優の高評を受け豪華を競ひ奢侈を極めしより兒女子たるもの尋常の學藝を措て俳優たられんことを希望するに至り隨て名優も多く輩出せり然れども此女優は概ね不品行にして常に酒よ酒よ淫よ沈し嫉妬横恣なると彼舞台よありて演ずるが如き優艶なるが如きものよあらず去れども其外貌の美麗なるより豪商紳士公子少年の之れよ溺れて身を誤り産を失ふもの少からず而して此女優も亦之れが爲め自ら其身を零落するものありと云ふ大凡新約府中にある女優の數を三百以上よ至り其三分の一の良人ありて裏町の旅店借家杯に住居せり此等の女優の一の會社を立て之に屬し一週間十二弗より五十弗の給料を受けて其職業を勉勵せり又女優の有名なるものハ二千弗式ハ一万弗の價ひある寶玉の贈物を得ることあり近來女優よ贈物を爲すと大に流行し各豪奢を競へり此の贈物を爲すと昔我

國にて俳優に與ふる纏頭に時の花を添へると同じく月花香と云へる草花を束ね之を覆ひて贈るを例とせり  
支那の俳優ハ悉く男子よして女役を演ずるものハ青年の徒なり而して其俳優ハ一定の居住なく所々を彷徨するものなり

#### 劇場今古内外の装置及機關道具

古代希臘劇場の形ハ看棚(我が棧敷)と稱する如き者なく觀場ハ半圓形よ成れり其周圍凡そ三分の二を限り列を立て中央よ向ひ一級毎よ高坐を設けて階級を立てたり劇場の中部即ち現今の土間よて看客の充満する所よ奏樂所の設けありて床ハ木製よして中央に一個の台ありて上よ「パツコス」と云へる神の祭壇を置きたり此壇上の近傍ハ唱歌者吹笛者後見人及び巡查等の居坐となり舞台ハ此奏樂所の背面の高き所よあるを以て出語等の節ハ階より昇り出るなり

當時の道具機關と謂ふべきものもあつた又幕もありたれども上より下  
 ずして唯舞臺の背面の凹欠せし所を蔽ふのみ而して俳優の重立たる  
 もの、舞臺より出る戸の中央にありて王戸と稱し下等の俳優は左右の  
 戸より出たり此頃の劇場の家根等の設あくして劇場の周圍より長廊あ  
 りて降雨の時ハ看客此所より集りて雨を避けたり又晴天の時ハ天幕を  
 張りて日光を防きたり而して觀客をして舞臺の聲音を聞くに便なら  
 しめんが爲め觀客の坐上より鑲製の瓶を埋めて響音反射体となし又  
 俳優の鑲製の口管を有する假面を被りたれハ其形の恰も談話する喇  
 叭の如きものと一般ありと云ふ

劇場の建築法ハ日を追ふて種々變化すれば決して同一のものにあら  
 ず近世劇場にある圓形の看棚及後面斜ある土間の形ハ一千六百三十  
 九年「ベネチス」に於て始めて設置せし所にして其馬踏形の看棚ハ一千六

百七十五年「フオレンダナ」あるもの羅馬の「トルデノニ」劇場よて建築  
 せしが此方漸く進歩して完全より至り歐羅巴全國大小の劇場より浴く用  
 ひられたり而して近世の劇場ハ皆均一の區別を爲し分て二部と爲し  
 一を觀場となし一を舞臺とす舞臺ハ一字形に横はり棧敷ハ弓形とな  
 し四層乃至六七層も重りて其東西の棧敷ハ舞臺に向て斜めとなり一  
 と間々々區畫し各椅子一脚を備ふ平土間の聯申せる脚跟の椅子を聯  
 列せり又舞臺より花道と云へるものなく平土間の中央より後ろ半分  
 ハ「ピットストール」と云ふ極めて卑賤の處とす又其前半分の「ストール」  
 と稱し甚だ高貴の處とす唯方の「ストール」の前舞臺の床の邊より一ヶ所  
 穿ちて之れより居れり而して其幕ハ總べて釣り上げ釣り下げあり  
 又棧敷の外より特別看棚あり或ハ休憩所及會堂等の設けありて休戯の  
 時看客の逍遙する所とす劇場入口等の階段ハ佛國と雖も往々不充分

の處ありしが英國にてハ近來宏大なる階を設立すべしとの注意を起すに至れり

本舞台の前面ハ突出したる「プロセニム」と云ひ羅甸の言語よして即ち舞台前面の儀なり此所ハ俳優演劇の際十分進み出で、其技を演ずる所なり而して演劇の始まらざる間ハ幕を掛けて之を蔽へり其天井ハ平行にして畫像等の粧飾ありて尤も美觀を尽せり亦舞台の奥行の深くなりしハ道具を使用する爲めよせしものにして羅馬法王「リオ」第十世の前ハ全國よ於て建築學士「バルダサル、ベリチユノ」の發明よ係る廻轉道具ヲ採用せしより起りしと云ふ

舞台の床ハ平々ならずして斜なり前面より漸次高くなれり又天井高くして床下は深し斯ハ看客より充分演戲を觀せしめん爲と又舞臺よて種々の機械を運轉するよ便利ならしむるよ出たり其大道具ハ總て

錐仕掛或は繩又ハ越重器の力よよりて上下するものとあり舞臺中間の脇よ突出し凹線形にして能く上下し正しき距離よ群列せる所を「プラットフォーム」と稱し此の間より俳優ハ舞臺へ往來す近頃佛蘭西にては此道具を取除き新工風をなして大に改良を加へたりといふ

道具置場ハ舞臺の後面よ設く又舞臺の一隅を後見人の居所となし此所より鈴を鳴らして俳優の勤むべき役の時刻を報し又ハ劇場中の點火を指揮すこれハ燈火の管此所より各方へ分離すればなり

舞臺の後路にハ劇場よ關する種々の室ありて管理者室男女俳優着衣室「グリーン」室俳優舞臺へ出る上等俳優着衣室衣裳庫飾具庫道具庫會計室土人及瓦斯方部屋道具粉畫室等の設あり

劇場中の點火ハ先づ觀場の天井の中央よ當り大ある「ロストル」と云へるものを以て點火し看棚よハ別に小火を点す又舞臺の左右よも此の

「ロストル」を設け舞臺の周縁に足火と稱する点火あり時々演劇の脚色により其光を種々の色に變化せしむ凡て点火の舞臺并出入口とも皆瓦斯を用ひ舞臺の高き處もあるものを瓦斯「バテン」と云ひ左右の脇にあるものを瓦斯「ウイング」又「ラットル」とも呼べり  
 劇場にて寒暖其度を失するを「ロストル」が空氣の大体を呼吸するよりして爲め其流通の不充分より起る者あれば舞臺及各廊下の皆湯管を用ひ寒氣を防げり近來佛國巴里の劇場は於て「ロストル」を除き別は玻璃の天井を造り最強の火勢反射体を以て輝さんとせしとありき  
 日耳曼は於て新式の劇場は他國に摸擬せしものもあらず其舞臺の兩方へ二個特別の觀場を設置し通常の如く整備するものも冬劇場と稱し而して外壁或は家根看棚の中窪なる所へ窓を造り風を通するも便ならしめ白晝演劇を興行するものを夏劇場と呼ぶ入口に左右の階

あり内は長廊下及び看樓を設けたり伯林府の「ピクトリヤ」の如き最も著名のものなり

#### 古代衣裳飾具

古昔より俳優が代々傳來して用ふる所の衣裳飾具等ハ昔時悲戯を演じたりしとき全たく宗教上より干渉して製せしものあれば神の祭式に屬するもの多し又悲戯發明人「エセロス」の衣裳は付古記に載する所を見るに亦宗教祭禮行列等に用ひしものと同じきものを被り居れりと云ふ

悲戯は於てハ高位高官の人ハ縋箔したるものよて老年なれば足は達し若年なれば膝は垂る表装を着して其上は綠色にして紫色の絞縋したる外套の長さものを着るとなり去れとも貴人にても王侯の位にあらざる人々の金箔の纏したる短き紅色の外套を着し縋箔したる肩掛



の美麗あるものを覆へり

「アトリュヌス」及び「アガメノン」等の如き強大勇猛なる所の王の「コルボス」と稱する上着をバ長服の上よ被る「ダイオニセス」の紫色の長服を着し薄き藍色の上着を被り縫箔したる肩掛を掛けて手に「スルメス」と稱するものを持てり是ハ葡萄蔓などの巻き付きし鞭あり女王ハ紫色の衣裳を着けて白色の肩掛を覆へり若し表よ居る時ハ凡て黒色の衣裳よして肩掛ハ濃藍或ハ暗黄色なり喪中の人或ハ流刑人の汚穢なるが如き暗灰色或ハ暗黄色或ハ暗藍色の衣服を着す賣卜者の如きハ毛糸よて織りたる綱細工様の長服を被るなり

倍て悲戯を演ずるときに勇者等の身体を長大にせんとすることあり「バコッルース」ど云へる半身沓を穿ち又其支体をハ物よて蔽ひ絡ふなり此他頭髮或ハ髭等の模様ハ時の流行に従ひて變ぜりと云ふ

### 樂器

歐洲の音樂ハ希臘より起れり其樂器ハ「ハープ」と稱するものよて十弦又ハ十三弦を有し其形ハ方圓の二様ありて此樂器中世紀まで盛行行へれたり又「ツールテリー」「ツルシメル」「シトール」の三種の樂器ありて此より種々の樂器を生み出せり「ツールテリー」ハ函の上よ金屬の弦を張り撥ハ瓜の如きものよて彈す「ツルシメル」ハ其製造「メーテルテリー」ど略同一なれども彈法ハ之れと異なりて二本の曲りたる棒よて叩けり恰も清樂の木琴を叩くと全し理なり「シトール」も構造ハ前の二樂器と同じけれど彈法ハ又異りて唯ハ指先よて彈きたる者なり十一世紀の頃伊太利なる「アレゾ」よ「ギドール」ど云へる人種よ音樂の工夫を凝りたりしが箏よ鍵盤と云へるものを仕掛たり此樂器を「グラヴィセリユーム」と名けたり此樂器ハ羊腸の弦を用て金屬に代へ撥よて掻き鳴す趣向なり

十六世紀の頃に至り「クラヴィコルド」と云へる樂器出來たり此仕掛の「クラヴィセリウム」と全一あれども其弦は羊腸を廢し金屬を用ひ「ダム」と云へる停音子を加へたり此停音子の或る弦は一音を發したる後布片革片又は其他のものを以て直し弦を抑へ音を止むるものあり夫より十七世紀の終り十八世紀の始め迄は「ヴァオルシナル」と「スピキット」の二樂器盛よ行はれ英國の女王「エリサベス」の如きは尤も之を愛翫したり此頃より歐洲よて音樂頻り進歩し「ハープシユールド」始めて流行し樂器中の上位を占めたり現今歐洲よ於て盛よ行はる「ピアノ」ハ此樂器より一步を進めたる完全なるものあり要するに「ピアノ」ハ前記種々の樂器あり進化せしものなり大抵古代の樂器ハ撥の理よよりて彈したり「ピアノ」ハ此法を廢し小さき槌よて打つ仕掛なり此「ピアノ」の發明人ハ諸説區々として一定せず伊國羅馬よありし英國の僧侶

「ファゾルウッド」と云へる人一千七百十一年「ピアノ」を發明して一基を「ボルジニヤ」の「ヒムチルグリスピー」に賣りたりと云ひ又此の「グリスピー」が發明なりと云へり佛蘭西よてハ一千七百十六年巴里の人「マルス」と云へるもの始めて之を製作したりと云ひ日耳曼よてハ一千七百十七年「ドレスデン」の音樂師が工夫を凝らして聲音高くして優和なる「ピアノ」を製作したりと云へり

花鳥風月の料よ乏しからざる我國ハ未だ曖昧の昔より人々優美の風ありて夙く既に歌謠の萌芽舞曲の蓄苔たる和歌歌垣などの行ハれ後世爛熳たる美術の花を開くべき兆候を顯はせり神功皇后の三韓征伐あり推古天皇の使を隋に遣はされしより漸く韓よ通し唐に交り始て諸般の文物と共に彼の土の伎樂音曲を傳へ近江の朝よりハ雅樂寮の設ありて朝會にハ大歌立歌神事よハ久米舞倭舞東舞等

本邦固有のものを用ひ又佛會宴會より高麗樂唐樂を用ひられ和漢相並びて猶花の素白濃紅色と交ふるの有様なり。後聖武天皇の世に天竺の僧佛法と共に其國の樂とを傳へ延喜天曆の熙世より群芳園に充ち互に妍華を争ふ然れども當時の舞曲は皆高尚なる天然の風韻を具へ獨り禁苑のものとして紳縉の間より翫われしに過ぎず。降りて後白河天皇の頃より和讃の一變せる今様歌盛に行われ又僧家に延年の舞を出だし漸く其風下より遷り白拍子田樂猿樂の如き伎舞琵琶法師の如き歌曲を生し皆多少實事を摸し滑稽を交へ貴賤共に相樂むべきものとあれり。後田樂は此條氏の世より盛り流行し足利氏の世に至りては猿樂益暢發し次で戰國の時矢石の間より武人の翫とせられ延きて徳川氏の世に及び白拍子の女舞は變じて久勢舞となり又一派類を同くせる念佛踊を出だし琵琶法師の専ら平家を

語り足利氏の末變りて淨瑠璃となり慶長の頃より三味線も合せ後又傀儡を遣ひて操りを生し遂に此猿樂念佛踊淨瑠璃操り等相混淆して今の歌舞伎とあれり。是猶臺駘師が接木の法媒介の術を施して巨瓣細葉花木は異様の形色を呈し園丁の又之れを配栽分植して方圓六稜種々の花壇を造るに異らず。今や此李園てふ花壇は既に人工の者となり山野自然の風景を失へりと雖能く諸人の目を歡はしむるも足り文明の春に遇ひ西洋の風に吹れ一層鮮妍たる艷光を増し馥郁たる芳香を發ち將に世より著はれむとする萬國無比の一大美術園を裝飾して一部の光景を添んとす希に此餘ある材料を用ひ巧み耙鍍を施して貴賤雅俗の相共に娛むべき者たらしむむとを

櫻處 福地 復識

演劇史終

天保の末改革の烈しき風は盛り場の花を一時は散り果て  
芝居も小草も埋もれし浅草の地へ道具替りも日覆の月光  
りを失ひ役者も奈落の地へ墮て錦は換る摺箔の木綿衣裳  
は賤しき者と見さげられしも光陰は當りの矢よりも早く  
浮世は廻り舞臺として幾程もなと釣枝の再び花咲と榮あ  
りしも開化は進む守田座が新富町へ引道具は開場式の大  
仕掛世話場も御殿の金襴先一等の劇場となり今の貴顯  
の御方さへ御見物の有る程は位置を上しハ座長の奮發作  
意も兼て腹稿ありて義民傳は改良の魁なして脚色を換斯

高尚な團洲が時次烏帽子や衣服の穿鑿彼歐洲の演劇も  
 耻さるやうなさばやと改良會の諸君の盡力逸とを學海先  
 生が趣向も吉野拾遺の名作其他西洋各國の名譽の脚色  
 の翻譯書引幕の引もきらす山臺の山なすハ今や演劇の盛り  
 といふべし茲は學者の花方なる谷口先生が著述ありし演劇  
 史の新編ハ三番叟の鈴の段ふりし昔の濫觸より先今日ハ是  
 ぎりの今日迄の沿革を委しく記せし未發の一奇書好劇諸  
 君ハ發兌の初日を競ふて御覽あらん事口上めかして述ぶるよ  
 なむ

明治二十年二月上旬 前河竹默阿彌記

明治廿年二月廿一日版權免許  
 同年三月一日出版



著者

東京府士族

谷口政徳

東京下谷區仲徒町三丁目  
四十八番地

三重縣平民

出版人

福地復一

東京下谷區仲徒町三丁目  
四十一番地寄留

印刷

常磐木活版所

東京日本橋區本石町  
壹丁目一番地

高尚な團洲が時次烏帽子や衣服の穿鑿彼歐洲の演劇より  
 耻ざるやうなとばやと改良會の諸君の盡力逸とを學海先  
 生が趣向も吉野拾遺の名作其他西洋各國の名譽の脚色  
 の翻譯書引幕の引もきらず山臺の山なすハ今や演劇の盛り  
 といふべし茲は學者の花方なる谷口先生が著述ありし演劇  
 史の新編ハ三番叟の鈴の段ふりし昔の濫觴より先今日ハ是  
 ぎりの今日迄の沿革を委しと記せし未發の一奇書好劇諸  
 君ハ發兌の初日を競ふて御覽あらん事口上めかして述ぶるよ  
 なむ

明治二十年二月上旬

前河竹默阿彌記

明治廿年二月廿一日版權免許  
 同 年三月一日出版



著 者 東京府士族 谷 口 政 德

東京下谷區仲徒町三丁目  
 四十八番地

三重縣平民

出 版 人 福 地 復 一

東京下谷區仲徒町三丁目  
 四十一番地寄留

印 刷 常 磐 木 活 版 所

東京日本橋區本石町  
 壹丁目一番地

發兌書肆

東京日本橋區通二丁目	東京日本橋區久松町	全 西川岸	全 神田區雉子町	全 京橋區南傳馬町	全 日本橋區大傳馬町	全 日本橋區橋町	全 京橋區南鍋町	全 日本橋區元大坂町
博 東京京橋區銀坐四丁目	春 東京日本橋區通四丁目	博 山城屋佐兵衛	博 文 堂	須原屋鐵治	巖 々 堂	吉川半七	內田芳兵衛	鶴 聲 社
		兔 屋	法水德兵衛					

各地賣捌書肆

東京	全	丸 善	北 昌茂兵衛	山 中市兵衛	有 隣 堂	團 々 社	樂 成 社	覺 張榮三郎	秩 山 堂	山 中孝之助	金 港 堂	石 川治兵衛	牧 野善兵衛	叢 書 閣	阪 上 半 七
東京	全	大 坂	全	全	全	全	全	全	名古屋	全	全	全	全	全	全
開 成 社	盛 春 堂	岡 島 興 七	前 川 善 兵 衛	博 開 社 支 店	柳 原 喜 兵 衛	梅 原 龜 七	永 樂 屋 東 四 郎	梶 田 勘 助	博 開 社 支 店	川 瀨 代 助	村 上 勘 兵 衛	田 中 治 兵 衛	福 井 源 次 郎		

三重縣四日市	伊藤善太郎	栃水縣宇都宮	石塚喜一郎
全 津	郁文堂	茨城縣水戸	川又銀藏
全 山田	加藤長平	長野縣長野	成田良太郎
全 同	有文堂	千葉縣千葉	立真會
全 松阪	山本龜太郎	青森縣青森	松森豊四郎
全 桑名	大塚茂兵衛	山梨縣甲府	徵古堂
全 上野	豐住伊兵衛	宮城縣仙臺	伊勢安右衛門
兵庫縣神戸	船井政太郎	新潟縣新潟	井筒駒吉
滋賀縣大津	小川儀兵衛	靜岡縣靜岡	廣瀨市藏
廣島縣廣島	園山喜三郎	函館	魁文社
岡山縣岡山	細田源兵衛	長崎	滿都屋太平次
和歌山縣和歌山	津田源兵衛		
全 橫濱	吉川伊兵衛		
全 埼玉縣熊谷	高橋安五郎		
群馬縣前橋	杉浦平左衛門		
	高橋常藏		



25

199

1942

1942

25

199

074768-000-7

25-199

演劇史

谷口 流鶯 (政徳 / 著

M20

CEK-0066



